

2021年度公益財団法人JKA補助事業

教育現場のICT安全安心対策事業 実施報告書

令和4年3月

一般社団法人日本教育情報化振興会



この事業は競輪の補助金を受けて実施したものです。

目次

第1章	1
情報モラル指導充実のための事業	1
1. 事業の目的	2
2. 作業項目とスケジュール／作業体制	3
3. セミナー開催	7
4. 教育の情報化推進フォーラム	27
5. 今年度作成したコンテンツの概要	30
6. まとめ	36
第2章	37
コミュニケーション力育成のための事業	37
1. 事業の目的	38
2. 作業項目とスケジュール／作業体制	39
3. 情報活用能力を育む授業づくりガイドブック	42
4. 情報活用能力調査	48
5. セミナー開催	57
6. 授業研究	61
7. まとめ	64

第 1 章

情報モラル指導充実のための事業

1. 事業の目的

インターネットは、社会生活の一部となり、買い物や予約申込み等は電話よりもむしろインターネットを利用して行い、インターネット無しでは考えられないというほど、社会生活に浸透している。また、スマートフォンの爆発的な普及によりインターネットへの入り口となる端末は、パソコン、携帯電話からスマートフォン、タブレット端末、ゲーム機、音楽プレーヤーのように多様化すると同時に、いつでも、どこでも、誰でもインターネットに接続して、利用できるものとなっており、児童・生徒は保護者の目の届かないところで利用できるようになった。また、2021年度には、文部科学省の政策「GIGAスクール構想」により、児童・生徒1人に1台のPCが整備され、その活用と児童・生徒の安心安全のための配慮が非常に重要なテーマとなっている。

このように身近になったインターネットであるが、その利用により手軽に多くの情報を入手したり、見知らぬ人々とコミュニケーションを取ったり、自宅での買い物も手軽にできるなど、様々なことが手軽にかつ安全安心にできるようになると同時に、もう一方では児童・生徒がSNS・Twitterや無料ゲームなどのコミュニティサイトで犯罪などに巻き込まれる事例も発生している。

日本教育情報化振興会では、児童・生徒の安全安心を願い「教育現場のICT安全安心対策事業」を展開しており、この中の一つの事業として「情報モラル指導充実のための事業」を実施している。

これまで、インターネットには危険な面があるということで児童・生徒をそれらから遠ざけるのではなく、子どもたち自身がインターネットを上手に使い、上手に付き合っていけるようにすることが大切であるという考え方に基づいて「ネット社会の歩き方セミナー」を開催してきた。これは、直接、児童・生徒と保護者に対し、ネット社会をどう歩いていけばよいのかを指導、啓発するセミナーであったが、学習指導要領の総則に「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載されたことを契機に、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導をできるように、その指導法、教材や現在児童・生徒の抱えている問題点など最新の情報を提供することを目的として、平成23年度から公益財団法人JKAの補助をいただき、情報モラル指導の講師を育成すべく「情報モラル指導充実のための事業」を行い、教職員や教育委員会の指導主事などを対象としたセミナーを開催して、今年度はその10年目にあたる。正しい指導方法を広く展開することを重要な観点として、セミナー参加者がその地域の教育委員会や学校に戻り、そこで講師として指導ができるための教材と指導方法を伝える資料を用意し、裾野を広げるための活動としている。

なお、これらは公益財団法人JKAの競輪の補助金を受け実施した。

2. 作業項目とスケジュール／作業体制

(1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである

図表1 作業項目とスケジュール

作業項目	2021年									2022年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会開催	▼① 30	▼② 17	▼③ 9			▼④ 7	▼⑤ 18		▼⑥ 7	▼⑦ 27		
開催地公募	▼											
テキスト改訂	▲	-----	▼									
セミナー開催			▲	-----					▼			
学習教材開発		▲	-----								▼	
教育の情報化 推進フォーラム												▼ 11

(2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「ネット社会の歩き方情報モラルセミナー検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。全7回の検討委員会を開催し、作業スケジュールの策定、セミナー開催地の公募と採択、セミナー用テキストの改訂、セミナー開催時の講師、学習教材の企画と開発、成果発表会での報告等、本事業の全体を管理した。

また、セミナー用テキストの改訂の実作業、セミナー開催地の教育委員会との連絡、セミナー開催準備、学習教材開発の実作業等は事務局が担当した。

図表2 委員一覧

所属	役職及び氏名
鳴門教育大学大学院	遠隔教育プログラム推進室長・教授 藤村 裕一
岐阜聖徳学園大学	教授 石原 一彦
聖心女子大学	非常勤講師 榎本 竜二
新見公立大学	教授 梶本 佳照
エンゼル幼稚園	子育て支援センター長 勝見 慶子
千葉学芸高等学校	校長 高橋 邦夫
柏市教育委員会	教育研究専門アドバイザー 西田 光昭

京都市立向島秀蓮小中学校	教諭	堀川 紘子
千葉大学教育学部 附属中学校	副校長	三宅 健次
川崎市教育委員会総合教育センター	指導主事	和田 俊雄

図表 3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人 日本教育情報化振興会	常務理事・事務局長 中沢 研也	責任者
同上	事務局次長・調査・研究開発部長 吉田 真和	総括・研修対応・窓口

(3) 委員会の開催

委員会は、適宜日程を調整し開催した。今年度は、たくさんの教材開発を行なったため、確認事項が多く発生したが、年間 7 回の委員会を開催した。

それぞれの開催日、議題は下記の通りである。

図表 4 委員会開催実績

開催回数	開催日	議題
第 1 回	R3. 4. 30	・年度スケジュールの確認 ・セミナー開催地採択と担当委員の選定 ・GIGA スクール構想に対応した共通教材の改訂の検討 ・新規教材について － ユニット教材（新規コンテンツ 10 本） － GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール） 1)Top 画面（5 種類）とリンク集（ひな型提供）の開発 － GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール） 2)PDF 版教材：図鑑型冊子 24 ページ（100 部製本）
第 2 回	R3. 5. 17	・新規教材について － ユニット教材（新規コンテンツ 10 本） － GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール） 1)Top 画面（5 種類）とリンク集（ひな型提供）の開発 － GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール）

		2)PDF 版教材：図鑑型冊子 24 ページ（100 部製本） ・ 関西教育 ICT 展のパネル討論について
第 3 回	R3. 6. 9	・ 新規開発するコンテンツについて - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本） - GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール） 1)Top 画面（5 種類）とリンク集（ひな型提供）の開発 - GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール） 2)PDF 版教材：図鑑型冊子 24 ページ（100 部製本） ・ 関西教育 ICT 展のパネル討論について
第 4 回	R2. 9. 7	・ 新規開発するコンテンツについて - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本） - GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール） 1)Top 画面（5 種類）とリンク集（ひな型提供）の開発 - GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール） 2)PDF 版教材：図鑑型冊子 24 ページ（100 部製本） ・ JAET 全国大会大阪大会のパネル討論について ・ 2022 年度開発教材の検討
第 5 回	R2. 11. 2	・ 教育の情報化推進フォーラムのパネル討論について ・ 新規開発するコンテンツについて - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本） - GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール） 1)Top 画面（5 種類）とリンク集（ひな型提供）の開発 - GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール） 2)PDF 版教材：図鑑型冊子 24 ページ（100 部製本）
第 6 回	R3. 12. 7	・ 教育の情報化推進フォーラムのパネル討論について ・ 新規開発するコンテンツについて - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本） - GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール） 1)Top 画面（5 種類）とリンク集（ひな型提供）の開発

		- GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール） 2)PDF 版教材：図鑑型冊子 24 ページ（100 部製本）
第 7 回	R4. 1. 27	・開発教材の最終確認 - アフレコに向けた修正の確認及び内容の確定 - GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール） 1)Top 画面（5 種類）とリンク集（ひな型提供）の開発 - GIGA スクール構想対応版 PKG（スタートキッティングツール） 2)PDF 版教材：図鑑型冊子 24 ページ（100 部製本） ・教育の情報化推進フォーラムのパネル討論について - 確認・レビュー

(4) 開催地の公募

開催地の公募は、教育委員会の意向もあり¹前年度の 1 月より行った。日本教育情報化振興会 の Web ページで公開すると共に、全国の都道府県と中核市以上の教育委員会約 120 カ所へ下記内容の案内状を送付した。また、当会の会報を全国自治体（1、724 カ所）の教育委員会に送付しているが、そこに下記内容の案内状を同封した。

1) テーマ

「情報モラル教育指導のポイント」

2) 開催時期と時間

令和 3 年 6 月から令和 3 年 2 月の間の午後、最低 2 時間 30 分

3) 対象受講者と会場あたりの定員

指導主事、教職員 約 50 名程度（目安）

4) 開催会場

地方自治体等の無償で利用できる会場 かつ 受講者がパソコンを使用可能な会場

5) セミナーの具体的な内容

講師育成セミナー検討委員会と貴教育委員会の協議で決定する

6) セミナーのプログラム（例）

- ・データから見るネット社会の現状
- ・情報モラルの指導（理論編および実践編）
- ・「ネット社会の歩き方」の活用

¹通常、地方自治体の教育委員会は教員研修計画を前年度の 2 月頃に策定している。この計画に組み込むために、本事業で実施するセミナーの採択に関しても早期の決定を求められている。

- ・その他の教材の紹介
- ・保護者との関わり
- ・問題発生時の対応
- ・ワークショップ

(5) セミナー用テキストの改訂

セミナー用テキストの中には、携帯電話・スマートフォンの保有率やネット上のトラブル発生状況等、年々変化する数値データがあるため、中央省庁が発表している最新データに更新した。

さらに、GIGAスクール構想により、1人1台のPC環境整備による情報モラルの重要性についても、解説を追加した。

また、スマートフォンを保有する比率が増え、アプリの進展による新しいSNSのサービスや問題にも対応する必要があった。このように世の中の動きを反映したセミナーとするために、委員の意見に基づき（過去一年間程度のネット上のトラブルやリスクの中から喫緊の課題と考えられる事案を取り込む）資料の差し替えを行った。

3. セミナー開催

(1) セミナー開催

本事業で提供するセミナーは、全国のエducational委員会が主催している教員向け研修会の一プログラムとして実施される場合が多い。この関係で、教員が比較的時間を確保し易い、夏休み期間に開催が集中している。教育委員会の指定が無い場合は以下のプログラムでセミナーを実施することとした。

昨年に続き2021年度も新型コロナウイルスの収束が見えないため、一部の自治体ではオンライン形式のセミナーに切り替えて開催した。

図表5 セミナー開催実績

開催回数	開催日	開催場所	講師	人数
第1回	R3. 6. 23	松浦市教育委員会 (オンライン形式)	西田委員	21名
第2回	R3. 6. 25	八街市教育委員会 (集合+オンライン形式・八街中央中学校から 配信)	西田委員	30名
第3回	R3. 7. 27	袖ヶ浦市立総合教育センター	藤村委員長	15名
第4回	R3. 7. 30	北海道佐呂間町教育委員会	藤村委員長	45名
第5回	R3. 8. 3	滋賀県栗東市教育委員会	三宅委員	11名
第6回	R3. 8. 4	呉市教育委員会 (オンライン形式)	榎本委員	71名

第7回	R3. 8. 6	関西教育 ICT 展	藤村委員長 石原委員 堀川委員 和田委員	60 名
第8回	R3. 8. 18	秋田県大潟村教育委員会 (オンライン形式)	榎本委員	44 名
第9回	R3. 8. 19	成田市教育委員会 (オンライン形式)	三宅委員	65 名
第10回	R3. 8. 20	鎌倉市教育委員会 (オンライン形式・鎌倉市教育センターから 配信)	西田委員	34 名
第11回	R3. 8. 23	千葉県山武市教育委員会 (オンライン形式)	三宅委員	34 名
第12回	R3. 8. 25	鹿児島市立学校 ICT 推進センター (オンライン形式)	榎本委員	31 名
第13回	R3. 11. 5	鹿児島県総合教育センター	藤村委員長	25 名
第14回	R3. 11. 20	JAET 全国大会大阪大会 (オンライン形式)	榎本委員 梶本委員 高橋委員 三宅委員 堀川委員	40 名
第15回	R3. 12. 1	堺市教育センター	三宅委員	16 名
第16回	R3. 12. 8	沖縄県西原町教育委員会	藤村委員長	70 名
第17回	R3. 12. 16	佐賀県教育庁 (オンライン形式・佐賀県教育庁から配信)	西田委員 榎本委員	92 名
第18回	R4. 3. 11	教育の情報化推進フォーラム (オンライン開催・日本教育情報化振興会から)	藤村委員長 榎本委員 勝見委員 西田委員 和田委員	151 名
合計				875 名

図表 6 袖ヶ浦市立総合教育センターでのセミナー風景（令和 3 年 7 月 2 7 日）



図表 7 北海道佐呂間町教育委員会でのセミナー風景（令和 3 年 7 月 3 0 日）



図表 8 秋田県大潟村教育委員会でのセミナー風景（令和 3 年 8 月 1 8 日）



図表 9 千葉県山武市教育委員会でのセミナー風景（令和 3 年 8 月 2 3 日）



図表 1 0 沖縄県西原町教育委員会でのセミナー風景（令和 3 年 1 2 月 8 日）



(2) セミナー開催団体の所感

セミナー開催団体の所感を以下に抜粋する。

- 1) 新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン研修で御講演いただきました。最新の情報やすぐに活用できるコンテンツの紹介など、大変有益な御講演をいただくことができました。グループ協議の内容発表の場では、発表者の発言の後に講師が御助言をくださったことで、研修をさらに深めることができました。

参加者からは、「目の前の子供の姿をイメージしながら受講することができた」「明日から指導すべき情報モラルが明確になった」「8月中に、本研修内容を校内に広める」等、今後に向けて前向きな意見が多数ありました。

- 2) これまでの情報モラル研修は、現代の子どもたちにおけるネット利用の状況やネットによるトラブルの紹介などが主でした。本研修では、参加者自ら教材作りをする実習を取り入れていただいたことから、学習内容や課題解決法などを試行錯誤する中で、情報モラル教育を実際に自分たちが進めていかなければいけないという急迫感を得ることができました。本市では、4月から小中学校一斉に一人一台タブレットを活用し始めたことを受け、情報リテラシーを子どもたち一人ひとりが自分事としてとらえることができるように伝えていきたいと思います。
- 3) 本市では、昨年度から、貴法人の御支援をいただき、情報モラル教育の充実を図っているところです。本年度は、各校に位置付けた「ICT教育推進リーダー」に本セミナーを受講させており、今後、各校で研修内容を周知させることで、全教職員に本研修内容を普及したいと考えております。情報モラルについての教職員研修は、定期的に行うことが大切だと考えております。是非、次年度以降も御支援をいただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いします。
- 4) 市内小中学校への情報モラル出前講座を例年数校で実施しているが、今回のセミナーで得た情報を、講座の一部に取り込み、リニューアルする。また、市内公民館主催の家庭教育学級で、情報モラルの講座を依頼されることが多々あるが、保護者向けの資料として参考にする。
- 5) 今回のセミナー参加者の中心は、情報教育のリーダーとなるべき人材育成を目的とした通年による継続研修（年間20回のインターバル研修）の受講者であることから、今後は参加者の所属校における還元研修として、今回の内容を行うようにします。
- 6) 講演では、GIGAスクール構想を含め、現在の教育の情報化の状況について詳しく話をいただき、情報教育の具体的、実践的な内容まで知ることができました。また、情報モラル教育が必要とされる社会的背景と情報モラルの指導について、本セミナーの参加者の校種が様々であったことを考慮し、幅広く事例を取り上げていただきました。

講演の後半では、「ネット社会の歩き方」のWebサイトで提供されている情報モラル教材の活用方法について紹介していただきました。情報モラル教材を活用したグループワークでは、主体的・対話的な情報モラルに関する指導について考えることができたようでした。

- 7) 今回の研修は、集合型（各中学校会場）とライブ・オンライン型を同時開催して行う「ハイブリット型」で実施しました。配信会場となる学校に講師の西田先生をお招きし、その場所での講演や研修のようすを他の会場に配信しました。集合型の対面研修のメリットと3密を回避する等の感染症対策を考慮することができ、本市教育委員会では初めての取り組みとなりました。

研修資料はオンライン上でファイル共有することができ、参加者はICT教育のメリットを実感できたと思います。自校の課題や実態に応じて、「ネット社会の歩き方」にある豊富な教材を選択し、作成した教材を参加者同士で意見交換することができ、大変有意義な研修となりました。

- 8) 今回の資料は各学校で回覧しました。地域からは主任児童委員が参加しました。このような機会は経験がないということで貴重だったと感想を述べてお帰りになりました。

図表 1 1 セミナー開催団体の所感

開催場所	講師	所感
長崎県松浦市教育委員会	西田 委員	今回のセミナーは、松浦市生活指導主任・生徒指導主事研修会の一環として開催しました。開催に当たって、首都圏に6月20日まで緊急事態宣言が発令されたこともあり、参加者は集合研修とし。講師とはオンラインで繋ぐよう対応いただきました。 前半の「ネット社会の歩き方」の講演では、ネットを取り巻く現状とモラル教育の必要性、学習指導要領とモラル教育との関連、ネット社会の歩き方の紹介をしていただきました。モラル教育の必要性については、危険性を伝えるだけでなく、便利な側面と危険な側面の両面を紹介していただき、参加者からも指導において、「ただ禁止するのではなく、どのように使うのか、どのようにしたらよいのかを指導していきたい」という感想が聞かれました。 後半のワークショップでは、本市からの要望で取り入れていただいたネットパトロール体験とネット社会の歩き方サイトを閲覧し、google スライド上に参加者が1スライドずつ、どのような活用をするのかまとめる活動をしました。 ネットパトロール体験では、検索エンジン上のキーワード検索だけでは個人的な書き込みに当たることではないことが実感でき、SNSに入り、根気よくキーワード検索をし、つながりをたどる必要性を知り、簡単にはできないことを認識することができました。 ネット社会の歩き方の活用では、サイトを閲覧し、動画教材の活用やペーパーサート教材を使用した教材作りを進めたいという参加者が多くいました。また、今回は一人一台端末として整備した chromebook を使用してセミナーを開催したことで、スライドの共同編集作業などを通して、授業での端末の利用についても考える機会となったという感想も聞きことができました。 今回のセミナーは、1人1台端末の家庭での使用により、今まで以上に児童生徒がネットに触れる機会が増えることが考えられ、学校における指導の充実のために申し込みをしました。毎年6・7月を中心に行っている「長崎っ子の心を見つめる教育週刊」での活用を行っています。そこで、「ネット社会の歩き方」教材を活用したいとの意見を聞くことができました。

八街市教育委員会	西田 委員	・ネットとの付き合い方を子どもにどう教えるか「悪いのはネットではない、正しい使い方を教えることが大事ということ」を気づかされた。 ・子どもたちのおかれている環境が、大きく変化していることを実感しました。 ・このような研修をもっとたくさんの教員や保護者の会の中などで、実施していただければ良いと思います。家庭でも GIGA スクール構想が身近になるかと。 ・教材が豊富で、実態に応じた指導が可能です。 ・教員向けの情報モラル研修会を行い、生徒指導の参考にします。 ・情報モラルは、生徒に禁止させるのではなく、より良く使うために我々教員がどんなことを指導すればよいかという視点を持つことが大切であることがわかった。
袖ヶ浦市総合教育センター	藤村 委員長	・動画やパンフレット等の多様な資料があり、今後の教育実践に生かせるものばかりであった。 ・演習を交えながら、また講師のユーモア溢れる講話により、受講者は飽きることなく夢中になって参加することができた。 ・市内小中学校への情報モラル出前講座を例年数校で実施しているが、今回のセミナーで得た情報を、講座の一部に取り込み、リニューアルする。 ・市内公民館主催の家庭教育学級で、情報モラルの講座を依頼されることが多々あるが、保護者向けの資料として参考にする。
北海道佐呂間町教育委員会	藤村 委員長	・現在各学校及び教員が直面している課題をわかりやすく説明していただくとともに、実践的に事例紹介を参加者全員は真剣に話を聞かせていただき、「再度講演いただきたい」「もっと長く講演していただきたかった」などの感想が寄せられた。 ・藤村先生に講演いただいた内容を真摯に受け止め、今後の学力向上の取組に活かすとともに、藤村先生には是非再度佐呂間町で講演をしていただきたい。 ・意欲があれば、ICT もできるし、教育方針も変えられるんだと改めてわかった。

		・生徒自身がネット利用のルールを決める取り組みには大変感銘を受けました。自己決定自己調整が素晴らしい取り組みと思いました。 ・「ネット社会の歩き方」（ナビカード教材）は、限られた時数の中で必要なテーマをピックアップして使用できると思う。
滋賀県栗東市教育委員会	三宅 委員	・様々なネット上にある講座・資料をわかりやすく紹介していただき、子どもたちにネット社会をうまく歩いて行けるヒントをたくさんいただきました。三宅先生の専門的なご指導のおかげで自分の知らなかったこともたくさん知ることができました。子どもたちに意図的・計画的に情報モラルについて指導しているように努めます。 ・すごく丁寧な内容でわかりやすかったです。ネット上でのトラブルやクロムブックを使っていく上でのトラブルはなくなりにくいと捉えたうえで、子どもたちだけでなく教職員や保護者も情報モラルやリテラシーの向上をしていかなければならないと感じました。 ・新しい情報にたくさん触れることができ、学校に戻って活用したいと思いました。実際にクロムブックを使いながら教材作りをして参加者と共有でき、ありがたかったです。ありがとうございました。 ・これまでの情報モラル研修は、現代の子どもたちにおけるネット利用の状況やネットによるトラブルの紹介などが主でした。本研修では、参加者自ら教材作りをする実習を取り入れていただいたことから、学習内容や課題解決法などを試行錯誤する中で、情報モラル教育を実際に自分たちが進めていかなければいけないという急迫感を得ることができました。本市では、4月から小中学校一斉に一人一台タブレットを活用し始めたことを受け、情報リテラシーを子どもたち一人ひとりが自分事としてとらえることができるように伝えていきたいと思います。
呉市教育委員会	榎本 委員	・新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン研修で御講演いただきました。最新の情報やすぐに活用できるコンテンツの紹介など、大変有益な御講演をいただくことができました。グループ協議の内容発表の場では、発表者の発言の後に榎本先生が御助言をくださったことで、研修をさらに深めることができました。

		・参加者からは、「目の前の子供の姿をイメージしながら受講することができた」「明日から指導すべき情報モラルが明確になった」「8月中に、本研修内容を校内に広める」等、今後に向けて前向きな意見が多数ありました。 ・呉市では、昨年度から、貴法人の御支援をいただき、情報モラル教育の充実を図っているところです。本年度は、各校に位置付けた「ICT教育推進リーダー」に本セミナーを受講させており、今後、各校で研修内容を周知させることで、全教職員に本研修内容を普及したいと考えております。情報モラルについての教職員研修は、定期的に行うことが大切だと考えております。是非、次年度以降も御支援をいただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。
秋田県大潟村教育委員会	榎本 委員	・講演の最初に説明いただいた、ネット上でのトラブルについて、ニュース等で見聞きしてはいるものの、今回の講演ではそれがその後どうなったのかまで聞かせていただき、改めて「取り消しができない恐ろしさ」を感じる機会となりました。 ・ワークショップでは受講した教員から、「充実した研修だった」「面白かった」などの感想が聞かれました。 ・ワークショップでは絵コンテを描いたり、役割分担をしたり、場面設定について何度も話し合ったりと、グループ毎に活発な議論がなされていました。 ・発表された教材を見ると、講師からのアドバイスに基づき子どもたちに考えさせることを重点においた教材が多く作成されており、どれも実際に活用できそうなものでした。 ・研修で作成した教材は、機器の不具合や時間の制限によりすべての研修の場で共有することができなかったため、今後は共有フォルダやグループウェアに保存し、いつでも誰でも使うことができる教材として整理する予定です。 ・「ネット社会の歩き方」サイトに豊富な教材や素材が無償で提供されていることもわかりましたので、機械のあるごとに教職員へ同サイトの活用を促し、情報モラル教育を充実させていきたいと考えています。

成田市教育委員会	三宅 委員	・参加者全員が「新たな気づきや知識を得られた」、約8割の参加者が「2学期以降、子供たちに指導できそう」と回答したことから、実践的で有意義な研修であったと考えます。 ・トップダウン型で指導するのではなく、児童に考えさせながら身に付けさせるボトムアップ型の指導が特に大切である。 ・ネットいじめは時間と場所を選ばない、という言葉聞いて恐怖を感じた ・ペーパーサートでは、自分の持っているクラスであったことを基に教材を作成できるため非常に身近な教材を使って授業展開することができる。 ・今回の研修内容を参加者がそれぞれの校内で広めるとともに、全校で各種教材を共有することで、市内の情報モラル教育を推進してまいります。
鎌倉市教育センター	西田 委員	・とても勉強になりました。ただ、生徒にネット社会の歩き方を指導していくには時間が圧倒的に少なく学校内で確保することも難しいとより一層感じました。そして、指導できる教員の育成も急務だと思いました。「苦手なので」「授業で使わなくても授業が成り立つので」といつもでICTやネットに背を向けるのか・・・頭を抱えるところです。 ・在宅だと集中できるか不安でしたが、実際に端末を操作しながら参加できたので、このような内容ならむしろオンラインが向いていると思いました。 ・1人1台端末が整備され、モラル面の整備（教育委員会からのマニュアル等）の必要性が現場から聞こえてきますが、整備してから使い始めるわけにも行かず、同時進行だと考えています。今回の研修会では、各校が情報モラルを指導するうえでさまざまなヒントを与えていただきましたので各校で十分に教育活動に生かせたらと考えています。
鹿児島教育委員会 学校 ICT 推進センター	榎本 委員	・当初の計画と異なり、当日はオンラインでの開催となった。グループワークについてはブレイクアウト機能を利用し、参加者がいくつかのグループに分かれて議論を行った。実際の教材をどのように授業の中で活用するのかを具体的に意見交換したり、各学校の現状を話し合ったりすることで活発な意見交換が行われていた。参加者についてはオンライン開

		催としたことで、当日参加などもあり増加した。 ・今回のセミナーでは、大変参考になる具体的な指導をいただいた。今後GIGAスクール構想の実現によって、情報モラル教育の必要性は高まる。受講者には、各学校の研修での還元を教育委員会の学校での指導においては、タブレット端末の活用と並行して情報モラルの指導の必要性を示すことで、教職員の資質の向上に努めさせたい。
鹿児島県総合教育センター	藤村 委員長	・講演では、GIGA スクール構想を含め、現在の教育の情報化の状況について詳しく話をいただき、情報教育の具体的、実践的な内容まで知ることができました。また、情報モラル教育が必要とされる社会的背景と情報モラルの指導について、本セミナーの参加者の校種が様々であったことを考慮し、幅広く事例を取り上げていただきました。 ・講演の後半では、「ネット社会の歩き方」のWeb サイトで提供されている情報モラル教材の活用方法について紹介していただきました。情報モラル教材を活用したグループワークでは、主体的・対話的な情報モラルに関する指導について考えることができたようでした。 ・講師の方の講話が非常に分かりやすく、今後、機会があれば校内の職員にも共有できたらと思いました。 ・授業の進め方から根本的に考えさせられました。今後の授業に生かしていきたいと思います。 ・普段聞くことができない貴重な話を多く聞くことができ、また学校で有効に活用できそうな教材まで紹介していただき、有意義な研修にすることができました。 ・情報モラルは、特別支援学校の児童生徒にとっては理解・実践も難しい内容ですが、改めて大切さを感じることでした。今日の内容を基に、実践も考えてみたいです。 ・自分自身が「なぜそうなのか」を実感しながら国が目指している教育や社会の姿が理解できた。自分でも再度調べ、職員とチームで取り組んでいきたい。 ・今回のセミナー参加者の中心は、情報教育のリーダーとなるべき人材育成を目的とした通年による継続研修（年間 20 回のインターバ

		ル研修)の受講者であることから、今後は参加者の所属校における還元研修として、今回の内容を行うようにします。 ・また、当教育センターの所員も参加していることから、本センターで実施する情報モラル教育等に関する講座等において積極的に活用するとともに、各教科・領域及び生徒指導・教育相談等に関わる研修講座と関連付けながら、講座内容に取り入れていきたいと考えています。
佐賀県教育庁	西田 委員 (榎本 委員)	・西田先生の講演では、新学習指導要領を踏まえ、学校教育全体で情報モラルの指導を行っていること、行っていくことの重要性を再確認するとともに、情報モラルに関する様々な課題を国のデータや実際に起こった事例を基に示していただき、児童生徒を取り巻くネット社会の現状や問題点について知ることができた。Zoom によるオンラインで開催したことで通常より講演の時間が短くなった中、要点を絞って分かりやすく説明していただき大変ありがたかった。 ・ワークショップでは、研修講師を育成するという趣旨に基づき、情報モラルに関するペーパーサート教材を用いた道徳教材作成・指導計画・指導資料の作成という課題が出され、参加者は、自己が所属する学校の児童生徒の実態や研修会の実状などイメージしながら意欲的に取り組んでいたようであった。ワークショップは Zoom のブレイクアウトルームを使って実施したが、グループワークにうまく参加できなかった参加者がいたり、時間が短く情報交換だけになったグループもあったりしたようだが、概ね順調に行われた。発表の場では、個人もしくはグループで作成教材の発表をされ、今後、各学校において授業や研修会が実践される期待が高まるものであった。 ・受講者からは、先生の話聞いて「具体的に分かりやすい内容だった。色々な使える教材を紹介していただいたので、校内の研修で紹介するなど学校全体で情報共有したい。」やワークショップでは「情報交換で他校の取組なども知ることができてよかった。」などの感想が多く聞かれた ・今年度は国の GIGA スクール構想などで、全国的に 1 人 1 台端末が整備されるなど、ICT 機器の普及が急速に進んだ。そのような中で、「ネット社会」に係わる年齢層も低年齢化しており、情報モラル教育の重要性がますます

		ます増してきた。児童生徒が「ネット社会」と係わる中で、正しい情報モラルを身につけていくことが重要となっており、教員の情報モラル教育に対する意識もますます重要となってくる。今回の研修における実践的な教材の多くが無料で公開されており、今後の校内研修もしくは児童生徒への情報モラルの指導等に活用され、校内での情報モラル教育の充実につながると考える。また、今回取り扱っていただいた児童生徒を取り巻く「ネット社会」の現状や問題は、今後の指導に生かすことができ、情報モラル教育の実践意欲の喚起につながった。 ・佐賀県教育委員会では、県立学校が「情報モラル委員会」を設置し、年間指導計画の基、組織的に情報モラル教育を実施している。また、教員対象の研修として、毎年本セミナーを開催しており、例年は集合研修を行っていたが、本年はオンライン研修の形で開催した。集合研修では最大 50 名程度しか参加できないが、オンラインにより参加者を増やすことができる。現在、佐賀県では県立学校は 1 校最低 1 人の参加、小中学校は希望参加としているが、今後は小中学校の多くの教員へセミナーへの参加を促したいと考えている。
堺市教育センター	三宅 委員	・多くの教材を紹介いただき、情報モラル教育について学ぶことができた。 ・年に数回ではなく、日ごろから子どもや保護者に啓発できる教材があり、今後実践していきたい。 ・研修で知った情報を、教員で共有したい。 ・令和 3 年度、各学校において、ネットいじめ防止にかかる授業を実施した。 ・今後、「堺市立学校 スマホ・ネット ルール 5『まもるんやさかい』」の取組を推進していくとともに、教職員対象の情報モラルに関する研修の充実を図る。
沖縄県西原町教育委員会	藤村 委員長	・講義は 2 部形式で行い、前半は鳴門教育大学院藤村裕一先生の講義を中心に進み、GIGA スクール構想の必要性やこれから児童生徒に必要とされる資質・能力等についてスライドをもとに分かりやすく説明された。後半はワークショップ形式で、1 人 1 台端末が導入される中で必要とされる情報モラル教育について学ぶことができた。参加者も校務用端末やスマートフォンを活用して「ネット社会の歩き方」にて提供されているコンテンツを実際

		に閲覧し、どんな場面で使えそうかを話し合ったり、藤村先生が提供されたアナログの写真を活用して、どこまでが公開可能かをグループで話し合ったりする等、実践的なワークショップを通して、情報モラルや情報公開の危険性等について楽しく学ぶ様子が見られた。 ・参加した教職員からは、予想以上に良い反応が見られ、「情報モラル教育の必要性が分かった」「紹介されたコンテンツを活用して早速子どもたちに考えさせてみたい」等の感想が聞かれた。 ・平日の午後ではあったが、本町で今年度継続して行なっているタブレット活用研修会の第8回目として、70名近い教職員の参加があった。また管理職（校長2名、教頭6名）も多く参加する中で、藤村先生のお話を聞いたり、ワークショップに参加したりすることができたことは、本町でGIGAスクール構想に基づきタブレット端末の活用を進めていくことや、必要とされる情報モラル教育を推進する上で、大変意義深く、今後につながるものとなった。 ・セミナーで紹介されたコンテンツ等は、町内教職員で活用しているコミュニケーションツール（電子掲示板）で早速共有しており、各学校の授業での活用を積極的に進めていきたい。また、継続してセミナーの開催を行っていくことで、町内教職員の情報活用能力や必要とされる資質能力の底上げを図っていきたい。
--	--	--

(3) 受講者へのアンケート

セミナー内容を改善するために受講者へ下記アンケートを実施した。

図表 1 2 受講者向けアンケートシート（おもて）

★マークのしかた

悪い

良い

「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナー アンケート

「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナーを受講いただきありがとうございます。ご意見・ご感想を聞かせてください。

選択式の回答は、該当箇所のマーク○を塗りつぶしてご回答ください。
○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし / : 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。
この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

(1) 【択一選択設問】あなたの性別は？

男

女

(2) 【択一選択設問】あなたの年齢は？

20～29歳

30～39歳

40～49歳

50～59歳

60～69歳

70歳以上

(3) 【単一選択設問】あなたの所属についてお伺いします。以下の項目から、あなたの所属に合うものを1つ選んでください。（1つにマーク）

小学校

中学校

高等学校

特別支援学校

それ以外の学校

行政

その他

(4) 【単一選択設問】あなたの職名についてお伺いします。以下の項目から、あなたの職名に合うものを1つ選んでください。（1つにマーク）

校長

副校長

教頭

教諭

指導主事

その他

(5) 【複数選択設問】あなたの分掌分野についてお伺いします。あなたの分掌分野に合うものを選んでください。（複数回答可）

教科指導

生徒指導

教務

情報教育

研修

その他

(6) 【複数選択設問】あなたの担当教科についてお伺いします。あなたの担当教科に合うものを選んでください。（複数回答可）

小学校

情報

技術家庭

国語

社会

数学

理科

英語

音楽

美術

書道

保健体育

その他

(7) 【単一選択設問】これまで受講された研修についてお伺いします。過去に、今回のような情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがありますか。（1つにマーク）

ある

ない

(8) 【単一選択設問】これまでの情報モラル研修への関わり方についてお伺いします。過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがありますか。（1つにマーク）

ある

ない

→次ページに続く

1 / 2
情報モラルセミナー
アンケートシート
(2017年度)

20

図表 1 3 受講者向けアンケートシート（うら）

★マークのしかた



(9) 【複数選択設問】受講動機についてお伺いします。本セミナーへの受講動機として該当する項目の番号を選んで下さい。（複数回答可）

☐ 情報教育の担当をしているため
 ☐ 情報モラル指導のレベルアップのため
☐ 上司から受講の指示、勧めがあったため
 ☐ その他

(10) 【単一選択設問】セミナーの内容についてお伺いします。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に今回のセミナーが参考になると思うか、【参考度】をお答えください。（1つにマーク）

☐ 参考にならない
 ☐ あまり参考にならない
 ☐ やや参考になる
 ☐ 大変参考になる

(11) 【自由記述設問】今回のセミナー内容に関してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

(12) 【単一選択設問】セミナーの教材についてお伺いします。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に今回紹介した教材が活用できると思うか【活用度】をお答えください。（1つにマーク）

☐ 活用できない
 ☐ あまり活用できない
 ☐ やや活用できる
 ☐ 大変活用できる

(13) 【自由記述設問】今回ご紹介した教材に関してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

(14) 【単一選択設問】今回のセミナーで得られた情報の展開についてお伺いします。本セミナー以降に、校内などでセミナー、研修会など開催する予定はありますか。あなたの考えに合うものを1つ選んでください。（1つにマーク）

☐ セミナー、研修会などの開催する
 ☐ 現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい
☐ セミナー、研修会など開催の予定はない
 ☐ その他

(15) 【自由記述設問】開催を計画、予定されるセミナーや研修会はどのようなものでしょうか、ご記入ください

(16) 【自由記述設問】最後に、全体を通してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

アンケートへのご協力ありがとうございました。

2 / 2
調査票作成シート
アンケートシート
(2014年度)

1)受講者プロフィール

セミナー受講者のプロフィールを図表 14 から 18 にまとめた。

① 性別年代別受講者数

どの年代においても、男性受講者の方が多い。年代別では、30、40 歳台が多かった。

図表 1 4 性別年代別受講者数（単一選択）

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	無回答	合計
男性	17	48	40	35	6	0	1	147
	12%	33%	27%	24%	4%	0%	0%	
女性	12	30	32	29	2	0	1	106
	11%	29%	30%	27%	2%	0%	1%	
無回答	0	0	0	0	0	0	6	6
合計	29	78	72	64	8	0	8	259
	11%	30%	28%	25%	3%	0%	3%	100%

② 学校種別受講者数

全国の学校種別の教員の人数が、小学校：中学校：高等学校＝1．0：1．6：1．1であることを鑑みると、小学校の教員の受講比率が大きくなってきている。

図表 1 5 学校種別受講者数（単一選択）

学校					行政	その他	無回答	合計
小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他の学校				
161	58	6	5	2	14	7	6	259
62%	22%	2%	2%	1%	5%	3%	3%	100%

③ 役職別受講者数

一部の熱心な校長先生が受講されているが、通年では教諭が圧倒的に多い。その他は、行政職か ICT 支援員である。

図表 1 6 役職別受講者数（単一選択）

校長	副校長	教頭	教諭	指導主事	その他	無回答	合計
8	0	12	202	9	23	5	259
3%	0%	5%	78%	4%	8%	2%	100%

④ 分掌分野別受講者数

勤務校で情報教育を担当されている先生が多いが、2020 年 4 月から新学習指導要領の全面实施となったことと GIGA スクール構想のため、「教科指導」担当の先生も多い。また、その他が多いのは学校運営管理業務や行政職と予測される。

図表 1 7 分掌分野別受講者数（複数選択）

教科指導	生徒指導	教務	情報教育	研修	その他	合計
73	54	28	49	20	86	310
24%	17%	9%	16%	6%	28%	

⑤ 担当教科別受講者数

担当教科別に特に偏りは無い。

その他は、管理職もしくは行政職・ICT 支援員と予測される。

図表 1 8 担当教科別受講者数（複数選択）

小学校	情報	技家	国語	社会	数学	理科
135	2	9	6	10	7	20
英語	音楽	美術	書道	保健体育	その他	合計
13	6	4	3	16	43	274

2)受講者のこれまでの情報モラル研修との関わり

セミナー受講者のこれまでの情報モラル研修との関わりを図表 19 から 21 にまとめた。

① 過去の受講経験

過去に情報モラル研修を受講したことの無い先生の方が多かった。

図表 1 9 過去に、情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがあるか（単一選択）

ある	ない	無回答	合計
89	162	8	259
34%	63%	3%	

② 過去の講師経験

過去に情報モラル研修を企画したことが無い先生の方が多かった。

図表 2 0 過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがあるか（単一選択）

ある	ない	無回答	合計
22	230	7	259
8%	88%	2%	

③ 本セミナーの受講動機

「上司からの指示」の割合は少なくなっているが、積極的に受講されている先生は少ないと思われる。その他は悉皆研修となっているセミナーの参加者と予測される。

図表 2 1 本セミナーの受講動機（単一選択）

1：情報教育の担当をしているため	46	17%
2：情報モラル指導のレベルアップのため	129	49%
3：上司からの指示があったため	79	30%
4：その他	40	15%
回答数	296	

3) 本セミナーに対する評価

セミナー受講者のセミナー評価を図表 22 から 23 にまとめた。

① 本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になるか。

99% の受講者が有用と考えている。

図表 2 2 本セミナーの有用度（単一選択）

参考にならない <<<<<< 参考になる			
1	2	3	4
2	0	41	202
0%	0%	17%	82%
		3or4 の回答比率	
		99%	

② 本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会に活用できるか。

99% の受講者が教材を活用できると考えている。

図表 2 3 本セミナー教材の有用度（単一選択）

活用できない <<<<<< 活用できる			
1	2	3	4
0	4	68	173
0%	1%	28%	71%
		3or4 の回答比率	
		99%	

4) 今後のセミナー開催予定

セミナーの開催を具体的に考えている先生が少ないことは今後の課題と考えている。

図表 2 4 今後のセミナー開催予定（単一選択）

1. セミナー、研修会などの開催する	16	7%
2. 現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい	121	51%
3. セミナー、研修会など開催の予定はない	79	33%
4. その他	23	10%
回答数	239	

4. 教育の情報化推進フォーラム

当事業の活動内容を広く広報するための、2021 年度 教育の情報化推進フォーラムでは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、通常の国立オリンピック記念青少年総合センター会場での開催を中止し、オンライン開催に変更して実施した。今回は「GIGA スクール本格実施 2 年目はこうしよう！」と題して分科会 ZOOM ウェビナーにおいて実施した。

分科会の概要は以下の通りであった。

・開催日時 令和 4 年 3 月 11 日（金） 16 時 20 分～17 時 20 分

・オンライン開催：ZOOM ウェビナー1

〈以下は、参加者の URL 例〉

視聴 URL ウェビナー1

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_t7QxE_CxRvqKEmA_guf8Uw

・役割分担 コーディネーター：藤村委員長---主旨説明、基本的考え方、最新の動向、事例等

パネリスト：榎本委員---GIGA スクール 2 年目へ向けての一般的課題と情報モラル教育の具体的課題（高等学校）

勝見委員---幼児教育・小学校低学年における情報モラル教育

西田委員--- GIGA スクール 2 年目へ向けての一般的課題と情報モラル教育の具体的課題（小中学校）

和田委員---教育委員会から見た GIGA スクール 2 年目へ向けての一般的課題と情報モラル教育の課題

・来場者数 192 名

・趣旨 GIGA スクール本格実施 2 年目はこうしよう！

①学校・保護者・教育関係者の協働

②まだ間に合う 4 月からこんな情報モラル教育をしよう

・プログラム 16：20－16：25 進行からの講師紹介・諸注意

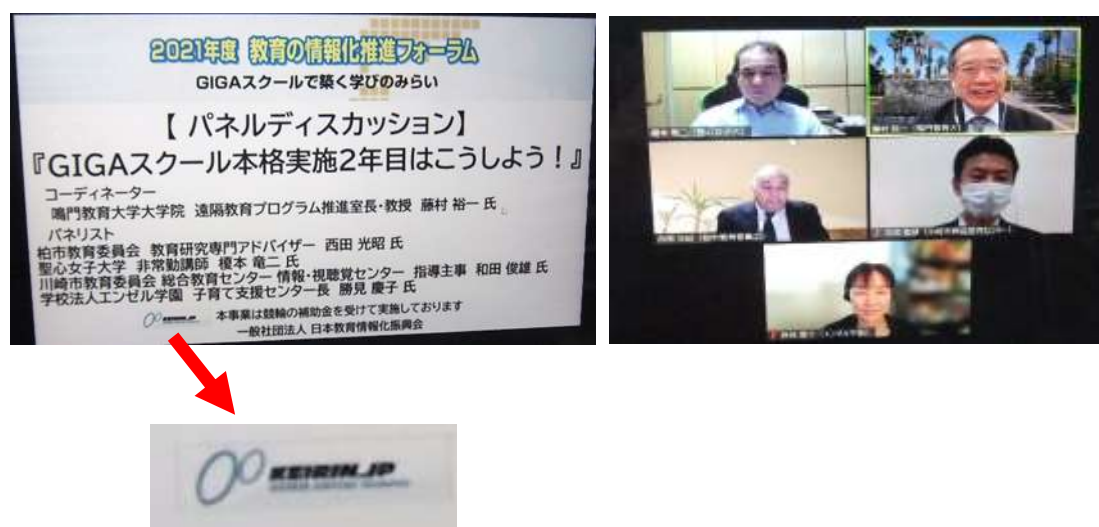
16：25－16：31 【藤村】本日の趣旨説明：GIGA スクールの一般的な課題と前提となる情報モラル教育の課題への焦点化（6 分）
（特に学校・保護者・教育関係者の協働）

16：31－16：37 【西田】全国や地元の状況を見て感じる GIGA スクール 2 年目へ向けての一般的課題と情報モラル教育の具体的課題（6 分）

16：37－16：43 【榎本】全国や地元の状況を見て感じる GIGA スクール 2 年目へ向けての一般的課題と情報モラル教育の具体的課題（6 分）

- 16：43－16：49 【和田】教育委員会から見た GIGA スクール 2 年目へ向けての
一般的課題と情報モラル教育の課題（6 分）
- 16：49－16：55 【勝見】幼児教育・小学校低学年における情報モラル教育
の課題（6 分）
- 16：55－17：00 【藤村】個々までの総括と 4 月からの情報モラル教育へのつなぎ
- 17：00－17：03 【西田】4 月からの情報モラル教育の提案（ネット社会の歩き方
動画教材・ペープサート教材にもふれるように）（3 分）
- 17：03－17：06 【榎本】4 月からの情報モラル教育の提案（ネット社会の歩き方
図鑑教材にもふれるように）（3 分）
- 17：06－17：09 【和田】4 月からの情報モラル教育の提案（ネット社会の歩き方
SNS シミュレーション教材にもふれるように）（3 分）
- 17：09－17：12 【勝見】4 月からの情報モラル教育の提案（ネット社会の歩き方
モラコミ・幼児低学年向け教材にもふれるように）（3 分）
- 17：12－17：17 【フロアからの質問】1 名のみ→回答（5 分）
- 17：17－17：20 【藤村】総括（3 分）

図表 3 0 パネルディスカッションの様子（セミナー開始・登壇者全員）



図表 3 1 パネルディスカッションの様子（藤村委員長）



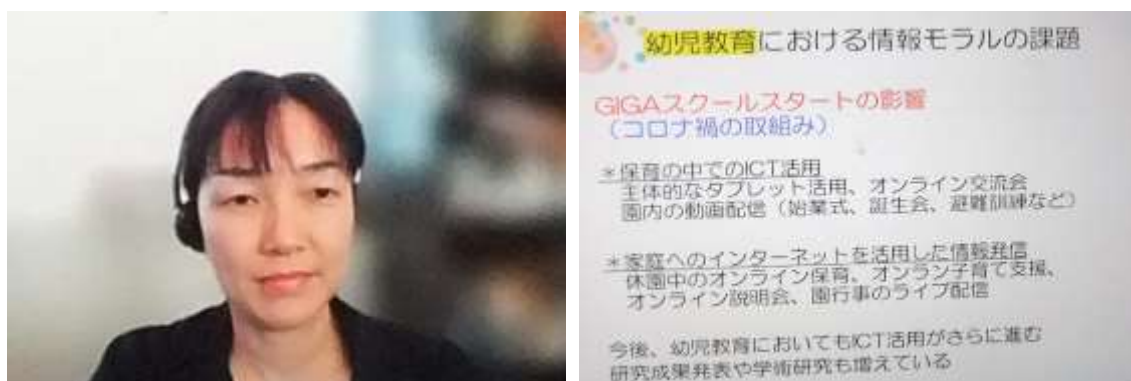
図表 3 2 パネルディスカッションの様子（榎本委員）



図表 3 3 パネルディスカッションの様子（和田委員）



図表 3 4 パネルディスカッションの様子（勝見委員）



図表 3 5 パネルディスカッションの様子（西田委員）



図表 3 6 教材の紹介



5. 今年度作成したコンテンツの概要

(1) 新規学習ユニット 10 テーマ

アニメーションで様々な事象を確認しながら、情報モラルについて学習できるようになっている。

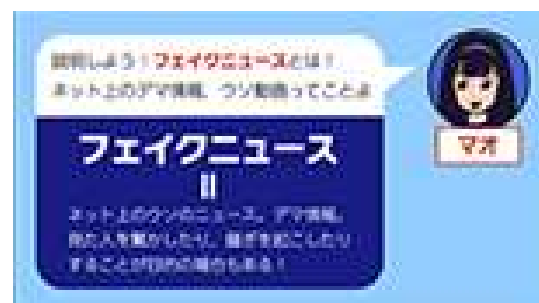
① フェイクニュースにはだまされないぞ！

<校種>

中高

<教科>

学級活動・道徳・総合



<学習内容>

フェイクニュースを通して、情報の正しい見極め方を考え、フェイクニュースに
だまされない姿勢を身に付ける。

②ギーガのトリセツ

<校種>

小中高+保護者

<教科>

ホームルーム・生活・技術家庭

情報・総合

<学習内容>

配布されたギガスクール端末の取り扱いについて、「壊さないように大切に扱う」ために、
具体的にどのような場面で破損事故が発生しているかを知る。



③みんなで使うものだから

<校種>

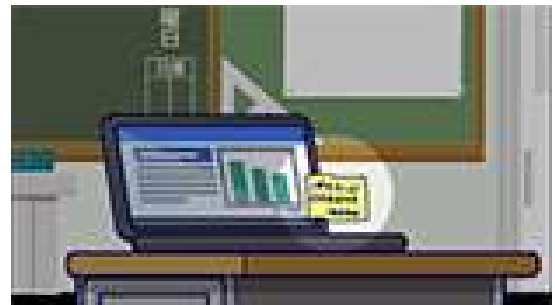
小中

<教科>

学級活動・道徳・総合

<学習内容>

1人1台の環境では、ネットワークに参加全員の情報がパスワードによって守られている。
みんなでネットワークを守る意識を持つことを身に付ける。



④GIGA端末持ち帰り時の約束は？

<校種>

小中＋保護者

<教科>

学級活動・総合

<学習内容>

GIGA 端末の持ち帰り時について、なぜ約束が必要なのかを考え気づかせ、主体的に活用できる態度の育成につなげる。



⑤オンライン授業に参加しよう

<校種>

小中高＋保護者

<教科>

ホームルーム・生活・技術家庭・

情報・総合

<学習内容>

オンライン授業に参加する時の留意事項を知った上で、考えられるトラブルやマナーを整理する。



⑥自分たちでルールをつくろう

<校種>

小

<教科>

学級活動

<学習内容>

スマートフォンやタブレット端末とうまく付き合っていくために、自分の生活時間を見直し、主体的なルールづくりを行う。



⑦人のフリ見て、我がルールを作れ！

<校種>

小中高＋保護者

<教科>

ホームルーム・道徳・情報・

技術家庭・社会

<学習内容>

ずっと続けたいスマホやタブレットの利用を、弟妹の問題行動を見ることで想起させ、第三者的に解決の意欲を持たせる。



⑧伝わらないね

<校種>

小中高＋保護者

<教科>

ホームルーム・生活・技術家庭・

情報・総合

<学習内容>

自分が伝えたいことは相手に伝わっていると思い込んでいるが、適切に伝わっていない場合がある。ネット上で疑問や不安に思ったときの対面コミュニケーションの大切さを考える。



⑨友達とのファイル共有は便利だ、でも注意して！

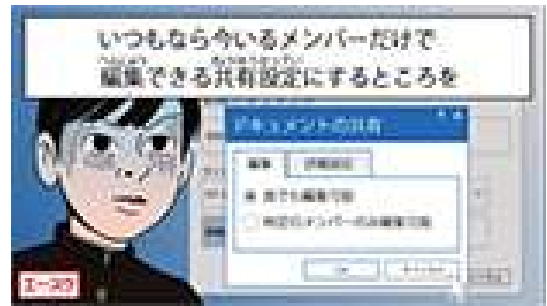
<校種>

小中

<教科>

学級活動・総合

<学習内容>



GIGAスクールでは、クラウドを活用した学習が、進められていく。

一つのデータを互いに共有しあう、協業学習活動の利便性ととともに、意図しない
トラブルもあることを学ぶ。

⑩一人で悩まず助けを求めよう

<校種>

小中高

<教科>

学級活動・道徳・総合

<学習内容>



学校のSNS友達グループの中で、仲間外れになった場合、1人で悩まず、学校の先生や
保護者、公的な相談窓口相談することで、苦しみを少しでも和らげることができるこ
とを知る。

●情報とネット社会のしくみ（GIGA スクール構想対応パッケージ）

小学校高学年以上を対象とした図鑑型教材。「情報」を科学的に理解することで、ネット社会への対応力を育てることを目的としています。本教材は以前に発行した同様の教材に、GIGAスクール構想に対応した内容を盛り込んだ内容になっている。

GIGA 端末の使用上のメリット・デメリットと GIGA スクール構想が目指す人材像などの他、コミュニケーションの仕組みや特性、インターネットの仕組み、そしてネットを使う上での注意点や好例を掲載。幅広くネット社会のしくみが理解できる。



●情報モラルポータルサイト

小学生・中学生・高校生を対象に、省庁・企業・団体がインターネット上に公開している情報モラルの学習に役立つ資料を一挙にまとめたポータルサイト。

さまざまなテーマごとに掲載してる。



6. まとめ

近年のICT機器の進展は目覚ましく、個々のハードウェアやソフトウェアに対応した情報モラル教育は事実上不可能になっている。学校教育でよく言われる「流行と不易」を、教える側が良く考え取り組む必要がある。

スマートフォン、携帯ゲーム機の普及により、平易にいつでもどこでもインターネットを利用できる環境が子どもたちに急速に拡大した。それらの変化により誹謗中傷や言葉不足からのいじめ、ネット犯罪の被害や更に加害者となる事例、生活に支障をきたすまでのネット利用などの事例が更に深刻化した。今回の事業は、子どもたちに有効な情報モラル指導を実施させ、充実したコミュニケーションを取れるための指導を行い、更にネット依存の手前で立ち止まるための指導を行えるための対策とした事業を実施した。

ここにおいて、公益財団法人JKAの補助金を原資として、日本教育情報化振興会が情報モラル指導の教材開発と教員向けセミナーを開催することは非常に社会的に価値があると考えている。文部科学省の学習指導要領に基づいた「不易」の部分に関する指導方法の研修と、マスコミへの掲載記事に基づいた「流行」の部分に関する最新の事故、事件、リスク回避方策の伝達は、日々児童・生徒と接している教員にとって指導時の参考になっている。

日本教育情報化振興会では、「不易」な面での道德を中心とする「心を磨く」領域の教材提供に特に力を入れていきたい。一方で、「流行」の面では情報を中心とする「情報の知識」「情報の理解」領域の教材提供に力を入れていきたい。来年度は、教員向けセミナーの開催（21ヶ所）と新しい問題や事件に対応した学習教材の開発を予定している。教育委員会よりセミナーの開催数の増加の要望もきているため、できる範囲で対応していきたいと考えている。

また、新規開発予定の教材の特徴については、以下の通りである。

①動画ユニット教材新規開発（10本）

②「ネット社会の歩き方」ナビゲーター

- ・おすすめの学習ユニットやナビカード教材を探してくれるインターフェース開発

③科学的理解の促進のための情報図鑑の充実

- ・小学校高学年/中学校/高校向け：4頁追加（全28頁）2,000部印刷

- ・小学校低中学年向け：16頁、2,000部印刷

最後に、少しでも多くの教員が情報モラル指導を実践できるよう、日本教育情報化振興会および委員全員が啓蒙活動に邁進する所存である。

以上

第2章

コミュニケーション力育成のための事業

1. 事業の目的

2020 年度から全面実施された小学校学習指導要領では、情報活用能力が言語能力に並ぶ「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられている。また、中央教育審議会（2016）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）において、「情報活用能力とは、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力のこと」としている。

そして、情報活用能力の重要性が最初に指摘されてから、すでに 30 年以上経過しているが、教員の認知度は決して高いとはいえない状況である。

また、様々な情報活用能力に関する表や整理が出ているが、「分かりにくい」「使いにくい」という声を聞く。さらに、自治体や研究会が作成しているものが乱立していて、「拠り所がわからない」という声も聞く。

このような状況の中本委員会では、現場の先生方が子どもたちの情報活用能力を育成する学習を行うために、参考となる指導指標を開発することやその指導指標を学校現場で活用してもらう、普及することを本事業の目的とした。

2020年度に、授業の構想及び実践に資する学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標を開発し、それを「情報活用能力ベーシック」と名づけた。「情報活用能力ベーシック」は、学習指導要領をはじめ、文部科学省が公開している関連文書を対象に、「情報活用能力ベーシック」に適合するキーワードを抜き出し、整理したものである。

2021年度は、「情報活用能力ベーシック」を、小学校の教科における低中高別に整理したものも含め、学校現場の先生方がより活用しやすいかたちにまとめたものが「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」である。

また、模擬授業については、この情報活用能力ベーシックに基づき、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできる模擬授業として開発した。

今後、様々な地域やイベントで広く模擬授業を実施していく予定である。さらに、授業で活用されることを期待する。

本委員会は、研究者、教育委員会担当者、校長、教員、そして事務局の教育情報化振興会が一丸となって、本事業を進めてきた。この冊子や取り組みが、子どもたちの情報活用能力育成に寄与することを願う。

2. 作業項目とスケジュール／作業体制

(1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである。

図表1 作業スケジュール

	2021年									2022年		
作業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会開催		▼① 16		▼② 7-8		▼③WG 21	▼④WG 16		▼⑤ 11			
				(書面開催)								
教科別能力表開発		▲										▼
セミナー開催					▼① 5, 6 大阪							▼ ② 11, 12 東京
アンケート調査										▲		▼
冊子教材制作		▲										▼

(2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「情報活用能力育成検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。全3回の委員会と2回のWG会議を計画し、作業スケジュールの策定、情報活用能力に関する能力表作成の検討及び作成等、本事業の全体を管理した。

また、情報活用能力に関する能力表の冊子教材の実作業、セミナー開催準備等は事務局が担当した。

図表2 委員一覧

所属	役職及び氏名
放送大学※	教授 中川 一史（委員長）＊
茨城大学※	准教授 小林 祐紀（副委員長）＊
放送大学※	客員教授 佐藤 幸江＊
東北学院大学文学部	教授 稲垣 忠
熊本市教育センター	主任指導主事 前田 康裕＊
船橋市立葛飾小学校	校長 秋元 大輔
鳥取県教育センター GIGA スクール推進課	係長 岩崎 有朋

柏市立手賀東小学校	校長 佐和 伸明
金沢学院大学文学部教育学科	専任講師 山口 眞希
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校	教諭 岡本 光司
浜松市立雄踏小学校	教諭 菊地 寛
北海道教育大学附属函館中学校	教諭 郡司 直孝
熊本市教育委員会 総合支援課 学校サポート班	宮津 光太郎

(注) ※：WG メンバー

図表 3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人日本教育情報化振興会	常務理事・事務局長 中沢 研也	責任者
同上	事務局次長・調査・研究開発部 部長 吉田 真和	総括
同上	普及促進部 担当部長 渡邊 浩美	連絡窓口・全体企画・運営・セミナー対応

(3) 委員会開催

委員会開催の他、メールによる検討・決議を行った。委員会の開催日、議題は下記の通りである。

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、すべてオンライン開催となった。

図表 4 委員会開催実績(全日程オンライン開催)

開催回数	開催日	議題
第 1 回	2021. 5. 16	・今年度の活動方針（中川委員長） ・予算化の活動について（事務局渡辺） ・情報活用能力指導調査2021（稲垣委員） ・情報活用能力手引き書作成について（小林委員） ・情報活用能力ベーシック活用事例の作成 ・中学校ベーシックの先行整理 ・各教科ベーシックの分析結果の学会発表 ・セミナーの実施について ・模擬授業の実内容について ・全体スケジュールについて

第2回	2021. 7. 7	・ 書面開催 ・ 2021 年度委託事業社の選定について
第3回	2021. 9. 21	第一回委員会で検討した制作物の構成や内容等について検討 第一回委員会で各委員の先生方に、以下について課題を依頼し、提出いただいた。その内容を精査 ・ 情報活用能力小学校版のさらなる具体化 ・ 情報活用能力ベーシック活用事例の作成
第4回	2021. 10. 16	・ 第3回WG委員会で懸案事項としていた、「「情報活用能力ベーシック」活用事例集」における主要教科の低学年・中学年・高学年版ベーシック原稿内容精査
第5回	2021. 12. 11	・ 小学校版主要教科の低学年・中学年・高学年版ベーシックについて（小林委員） ・ 情報活用能力ベーシック活用事例の作成（佐藤委員） ・ 今年度制作物「情報活用能力ベーシック手引き(仮称)」についてページ構成と原稿について ・ 情報活用能力に関する教員向け調査(稲垣委員) ・ 「教育の情報化推進フォーラム」パネルディスカッション／模擬授業の実施 ・ 中学校ベーシックの先行整理（社会、理科のみ）（小林委員、岩崎委員、郡司委員） ・ 次回の委員会開催日程調整

3. 情報活用能力を育む授業づくりガイドブック

2020 年度に、学習プロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標である「情報活用能力ベーシック」を開発し、2021 年度は、その「情報活用能力ベーシック」を授業計画や授業の中でどのように活用していくか、教科ごとの事例も含めたもので解説し、合わせて中学校版の理科と社会における「情報活用能力ベーシック」を追加したものをガイドブックとしてまとめた。以下の 4 つの柱となる。

- (1) 主要 4 教科の低・中・高学年ごとの情報活用能力ベーシックを開発
- (2) 中学校版理科／社会の情報活用能力ベーシック
- (3) 教育委員会での活用方法／校内研修での活用方法／若手教員への活用方法／情報活用育成研究校の活用方法
- (4) 11 教科の情報活用能力ベーシックを活用した実践事例



図表 5 1 ページ 表紙

目次	
●はじめに	3
●小学校版情報活用能力ベーシック	
国語	4
社会、教育委員会での活用方法	5
算数	6
理科、校内研修での活用方法	7
生活、音楽、図画工作、道徳	8
体育、家庭、外国語、若手教員への活用方法	9
総合的な学習の時間、特別活動、情報活用能力育成研究校の取組	10
●中学校版情報活用能力ベーシック（ベータ版）	
社会、理科	11
●情報活用能力を育む授業事例	
事例の見方・使い方	12
事例1 国語「むかしばなしを よもう～教材文 おかゆのおなべ～」	13
事例2 社会「これからの食料生産について考えよう」	14
事例3 算数「長方形と正方形～さかかくやしかくの形をしらべよう～」	15
事例4 理科「光の性質～理科の力で火事トリックを見破れ～」	16
事例5 生活「せかいでひとつわたしのおもちゃ～じぶんでもちやを作ってみよう～」	17
事例6 音楽「表現豊かに歌おう～こいのぼり～」	18
事例7 図画工作「きらめき劇場～光のポストカードをつくろう～」	19
事例8 道徳「許せる？ 許せない？」（資料名「ブランコ乗りとピエロ」）	20
事例9 体育「器械運動～マット運動～」	21
事例10 家庭科「工夫しよう おいしい食事」	22
事例11 総合「めざせ！ みぞはかせ・しょうゆはかせ」	23

図表6 2～3 ページ 目次及びはじめに

(1) 主要4教科国語、社会、算数、理科の低・中・高学年ごとの情報活用能力ベーシックを開発



図表7 低・中・高学年ごとの情報活用能力ベーシック①

(2) 中学校版理科／社会の情報活用能力ベーシック

＼ 中学校版 ＼

情報活用能力ベーシック

(ベータ版)

小学校版情報活用能力ベーシックに引き続き、中学校についても情報活用能力ベーシックの開発を計画しています。現時点において、社会及び理科のみであり、授業事例とつながりも示していないことから、ベータ版としました。

社会

各教科の特性

中学校社会科には、小学校や他教科等の特性に加えて、「比較・分類・総合、他の社会的事象との関連付けによる多面的・多角的な考察」「論拠を基に自分の解釈を加えた説明・論述」「他者との議論・意見交換」「合意形成や社会参画を視野に入れて構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを踏まえた表現」といった特性を確認することができます。特に、中学校社会科の3つの分野（地理・歴史・公民）で構成されていますから、それぞれの分野ごとにこれらの特性に留意する必要があります。

① 課題の設定
社会的事象に見られる課題を発見する。

② 情報の収集
観察や野外調査、訪問調査などの様々な調査や、年表や地図、文獻、図版、写真、統計資料、実物などの諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を適切かつ効果的に収集する。

③ 整理・分析
提示された課題(問い)や生徒の課題意識から、時系列に沿った整理や地理的な条件から整理する。

比較・分類したり総合したり、他の社会的事象と関連付けたり、多面的・多角的に考察する。

④ まとめ・表現
事象を説明したり、論拠を基に自分の解釈を加え説明・論述したり、議論や意見交換したりする。合意形成や社会参画を視野に入れながら、構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて表現する。

⑤ 振り返り・改善
学習内容・活動に応じた振り返りを行う。

理科

各教科の特性

学習指導要領解説の中で、理科における資質・能力を育むための科学的な見方や考え方の育成の流れは、課題の把握、課題の探究、課題の解決という3つの学習過程で示されています。これらの学習過程には、発見、収集、処理、分析、表現・伝達、振り返り・改善といった情報活用能力ベーシックに含まれるキーワードが共通しており、理科の授業における情報活用能力育成は扱いやすいといえます。そこで、教科の学習を進めながら、教師がこの場面は情報活用能力のどの部分に関連するかについて、学習者に意識付けることが必要です。

① 課題の設定
自然の事物・事象の中から問題を見出し、解決可能な課題を設定する。

② 情報の収集
仮説を立て、それを検証する方法を立案して観察、実験などを行い、記録や様々なデータを集める。

③ 整理・分析
観察、実験などで得られた記録やデータを表やグラフに

表し、分析・解釈することで関係性や規則性を見出す。

④ まとめ・表現
分析・解釈によって見出した関係性や規則性を分かりやすく表現する。

⑤ 振り返り・改善
仮説と考察が対応しているかなど、探究の過程を振り返り、必要に応じてプロセスの改善をしたり、新たな問題を見出したりする。

図表 9 中学校版理科／社会の情報活用能力ベーシック

(3) 教育委員会での活用方法／校内研修での活用方法／若手教員への活用方法／情報活用育成
研究校の活用方法

これからの国家及び社会の発展について考える。

教育委員会での活用方法

指導助言等で学校に訪問した際、このガイドブックを授業研究の共通項として扱います。本時は5つの学習プロセスのどこにあたるのか、そもそもこの単元設計は5つのプロセスが含まれているのかといったことをガイドブックと照らし合わせながら確かめます。特に単元を通した情報活用能力育成のためにも、プロセスの視点は重要です。

さらに教科のねらいを達成する取り組みと合わせて、本時で育むべき情報活用能力の育成の場面が並行して組み込まれているのかを確認する際に活用できるでしょう。

5

図表 1 0 P 5 教育委員会での活用方法

校内研修での活用方法

学習指導要領において、情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力に位置付けられたことにより、情報活用能力の育成を校内研究のテーマとして扱う学校が増えてきました。校内研究で成果をあげるためには、研究のねらいや内容、評価方法について全員が理解する必要があります。

しかし、これまで情報活用能力に関しては、教師各々のイメージや整理の仕方で行っていることが多かったのではないのでしょうか。「情報活用能力ベーシック」でプロセスやねらいを共通理解することは、全体での授業検討や評価を進める際に役立つものといえます。

7

図表 1 1 P 7 校内研修での活用方法

情報活用能力を育む授業事例

- 佐藤幸江 (筑波大学助教授)

むかしばなしを よもう ～菊村文「おかあのおなべ」～

種類	主な学習活動	指導上の留意点
導入	4. 課題の背景や課題を提示する。	① 課題の背景や課題を提示し、学習意欲を引き出すことが大切。
	② 生徒の関心や疑問に答え、必要に応じて資料や映像を用いて説明する。	
展開	5. ① 課題解決の目的や内容、学習の進め方を説明し、学習意欲を引き出す。 6. ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
まとめ	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

社会

時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1. 前期の学習を振り返り、学習目標を確認 - 短い動画を一斉観覧し、食生活の変化による輸入の増加が食料自給率低下の原因であることを確認する	● NHK For School の動画を自給率に関する動画を一斉観覧する
展開	2. ①輸入②自給 ③自給率の算出と算出結果を分析観察する 動画1: 自給率とは何ぞい 動画2: 自給率の輸入と自給率と日本の食糧・食料 動画3: 自給率を計算しよう (7分41秒)④自給率 3. ①前期の学び②自給率を他人同士で確認する 4. ①前期の学び②自分の自給率に気づき、自分の自給率を他人に分かることを見せよう。誰か自分の自給率が、食料自給率の平均(40%)を超えているか、それよりも少ないか、デジタール上の数値のグラフ上で確認する	● わつとつとを付箋にメモしてめく。また、自分の自給率を自分の自給率のシートにチェックする。 ● 人間活動を見た人同士交流し、内容を確認したり分類を整理しようとする ● キャッチボールと資料を渡ししながら説明するよう促す ● 横並びのチャートへ記入付けることで、3つの資料からの情報を整理し、考えを整理する等の学習にできるようにする
	5. ①前期の学び② 互いの情報を確認合わせて、整理する自分の履修を出す	● ①前期の学び②の時に、整理する情報のためにグループ交流や全体でのやり取りをする時間を取らない ● 学習をまとめた2枚の履修表へつける

家での学習

6. クラスで考えを交流し、学習のまとめをする
- 今の食生活を支えることと大変だが、食料自給率が高いことと密着が関係する。食料自給率を高くするために必要な食料の輸入は減らさなければならない、減らしてみよう。

算数

時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入	1. 本時のめあてを確認する。 ● 疑問を一つ両面し、実生活の変化による輸入の増加が食料自給率低下の原因であることを見極める	● 図形について、PM98についてくことを確認する。
	三角形、四角形、どっちでもない図形を見分けるよう。	
展開	2. 自力解決する 【図解】 交通をもとに、三角中と四角中とを異なる角度で考えるという問題を、ソフトに提示を出す。 考えを交換する 【図解】 ペアでそれぞれの場合を交換する。 【図解】 グループで考えを交換する。 4. 見分ける条件を確認してまとめる。 5. 両面する 【図解】 道のりから三角中、四角中、どっちでもない図形を提示して確認する。	● 約計を繰り返り、算数の問題を定めて練習するように促す。 ● 約計の考えを練習することへの意欲を高める。 ● 自分の考えを定めて、図解の仕方を見直ししたりできるように促す。 ● 算数、応用の、問われている、という3つの条件で知る。 ● プレゼンテーションの練習を促し、それぞれが図で確認した図形を見せあて、見分けるを確認しあう。
まとめ	6. 振り返りをする。	

47

4. 情報活用能力調査

- (1) 調査目的 GIGA スクール導入後における、情報活用能力認知度や GIGA スクール環境状況(アカウント、端末持ち帰り、ネットワーク環境等)の把握及び二年前調査との比較
 - (2) リサーチクエスチョン：学習指導要領の改訂&GIGA スクール以降の情報活用能力育成の実態を探る
 - (2) アンケート対象校 JAETの2019～2021年度11月までの学校情報化認定優良校の公立・私立の小学校・中学校・義務教育学校
 - (3) 抽出方法：公立校は設置者（市町村）ごとに小学校3校、中学校3校を上限にランダムサンプリングした243校
 - (3) アンケート回答 アンケート作成ツール「クエスタント」を活用
 - (4) 回答受付 2022年1月11日～、回答締め切り2022年2月18日
 - (5) 回答状況 115/243=47.3%（小学校71、中学校42、義務教育学校2）
 - (6) 調査概要
 - ・ 2019年調査の結果と一部比較を試みる
 - ・ 小中学校の教員4363名の回答
 - ・ 学習指導要領上の記述に対する認知の不足・指導項目に偏り
 - (7) 調査項目
 - ① ICT環境の整備状況<環境>
 - ② 情報活用能力の認知（2019年調査と同項目）<認知>
 - ③ カリキュラムマネジメントの実施状況<カリマネ>
 - ④ 教員研修の実施状況<研修>
 - ⑤ 学校としての取り組みの実施状況<取組>
 - ⑥ 関連する学習活動の頻度<活動>
 - (8) 質問項目
- （調査の前提）

対象：JAET 優良校（2021年11月までに認定）の情報担当教員

1：あなたの学校について教えてください。

- ①学校名（記入式）
- ②校種（択一） 小学校・中学校・義務教育学校
- ③児童生徒数
- ④教員数

2：あなたの学校のICT環境とその活用状況について教えてください。

- ①普通教室に大型提示装置（プロジェクター、デジタルテレビ、電子黒板等）はありますか？

A:すべての普通教室と特別教室に常設 B:普通教室にのみ常設 C:学年等で共有

②児童生徒用端末の整備状況

A:学校配布で一人一台環境を実現している（GIGA スクールの整備が完了）

B:一人一台環境に至っていない（GIGA スクールの整備途中等）

C:BYOD／BYAD 等、保護者負担で一人一台環境を実現している

③児童生徒端末の OS（複数選択）

A:Chrome OS B:iPad OS C:Windows D:Mac OS E:Android OS

④ 児童生徒のアカウント・クラウド利用の状況

A:1 つのアカウントで複数のクラウドサービス・アプリを利用できる（シングルサインオン）

B:クラウドサービス・アプリごとにアカウントを使い分けている

C:クラウドを使用せず、端末内・校内あるいは自治体ネットワーク内のサービス・アプリのみ利用

⑤教師の授業用端末の整備状況

A:授業を担当する全ての教員向けに端末が整備されている

B:学級担任のみ等、一部の教員に対して端末が整備されている

C:校務用端末と併用している

D:教員の私物端末を持ち込み使用している（BYOD）

⑥ネットワーク回線の速度について

A:児童生徒・教師とも遅延、接続できないなどのトラブルなく快適に利用できる

B:通信の遅延や接続できないなどのトラブルが起きることはあるが大きな支障はない

C:使い方によって大幅な遅延や接続できない状況が起きるため、用途・時間帯に制限がある

D:時間帯や場所により大幅な遅延や接続できない状況が起き、授業・学習に支障がある

⑦端末持ち帰りについて

A:日常的に学校端末を家庭に持ち帰っている／家庭端末を学校に持ち込ませている（全学年）

B:日常的に学校端末を家庭に持ち帰っている／家庭端末を学校に持ち込ませている（一部の学年のみ）

C:学习上、必要な場合のみ持ち帰らせている（全学年）

D: 学习上、必要な場合のみ持ち帰らせている（一部の学年のみ）

E:持ち帰りは実施していない

3：学習指導要領上の情報活用能力について

以下の 7 つの質問について情報担当者の立場として、もっともあてはまるものを 1 つ選んでください。

1 知らない・分からない 2 聞いたことはある 3 内容を理解している

4 意識して指導している

①学習指導要領では、総則に情報活用能力の育成について記載されている 1 2 3 4

②学習指導要領では、情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」の1つとして挙げられている 1 2 3 4

③プログラミング教育や情報モラル教育で身につける資質・能力は情報活用能力に含まれる 1 2 3 4

④情報活用能力には ICT 以外のさまざまな情報手段を活用する能力が含まれる 1 2 3 4

⑤学習指導要領では情報活用能力を、教科等を通じて横断的に育成するものとされている 1 2 3 4

⑥情報活用能力は、さまざまな知識・技能・思考・態度等が含まれる資質・能力である 1 2 3 4

⑦情報活用能力は、小学校から高等学校まで系統的に育成していく必要がある 1 2 3 4

4：情報活用能力のカリキュラムマネジメントについて

以下の6つの質問について、あなたの学校の現状として、はい・いいえでお答えください。

①自治体独自の情報活用能力の目標体系を使用している

②学校独自の情報活用能力の目標体系を策定している

③各学年の年間計画に情報活用能力の育成を位置付けている

④児童生徒の情報活用能力の状況をアンケートで把握している

⑤児童生徒の情報活用能力の状況をテスト等で把握している

⑥児童生徒の情報活用能力のデータをもとに、カリキュラムの改善を行なっている

5：情報活用能力に関する研修について

以下の9つの項目について、あなたの学校で2021年度中に校内で実施された研修について、あてはまるものすべてチェックをしてください。

A ハードウェアの使い方についての研修

B アプリ・サービスの使い方についての研修

C ICT 活用に関する実践事例の交流の研修

D 情報活用能力育成に関する実践事例の交流の研修

E 教師自身が情報活用を体験する研修

F 情報活用能力育成に関する授業づくりの研修

G 情報活用能力のカリキュラムに関する研修

H プログラミング教育に関する研修

I 情報モラル・情報セキュリティに関する研修

6：情報活用能力の育成に関する取り組みについて

以下の6つの質問について、あなたの学校での取り組みについて、はい・いいえでお答えください。

- ①情報活用能力について児童生徒に掲示物等で示している
- ②情報活用能力について児童生徒が手元で確認できる副教材・資料等を配布している
- ③情報活用能力について学校図書館と連携した取り組みを行なっている
- ④情報活用能力についてNHK for School等の動画で指導を行なっている
- ⑤研究授業等で学習指導案に情報活用能力を記載した
- ⑥研究授業の事後検討会等で情報活用能力について話題にする機会があった

7：情報活用能力の育成に関わる学習活動について

以下の5つの学習活動について、あなたの学校の「5年生」のクラスではどの程度取り組まれていますか？もっともあてはまるものを1つ選んでください。

(選択肢)

- A. ほとんど取り組まれていない
- B. 年に数回程度取り組まれている
- C. 学期に数回程度取り組まれている
- D. 月に1回以上取り組まれている

(設問)

- ①児童生徒が学習課題を自分（たち）で設定する
- ②情報を複数集め、比較検討する
- ③集めた情報を整理し、分かった・考えたことをまとめる
- ④伝える内容や相手を意識して表現を工夫する
- ⑤自分（たち）の学び方をふりかえり、評価・改善する

8：情報活用能力の育成の観点から特に重要と考えていることをお書きください。

(自由記述)

9：情報活用能力の育成について課題と感じていることをお書きください。

(自由記述)

10：以下のサイト（資料？）から情報活用能力ベーシックをご覧ください。

情報活用能力ベーシック：

<https://www.iapet.or.jp/wp-content/uploads/2021/11/pamphlet-low.pdf>

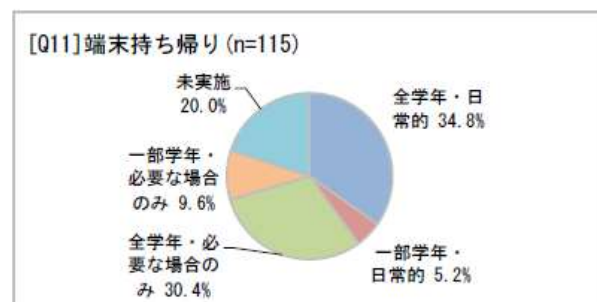
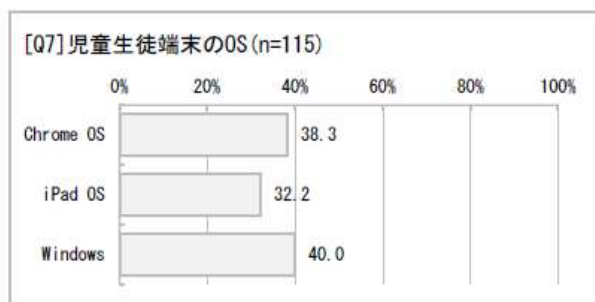
ご覧になって参考になったこと、分からないことなど、ご意見・ご感想をお書きください。

(自由記述)

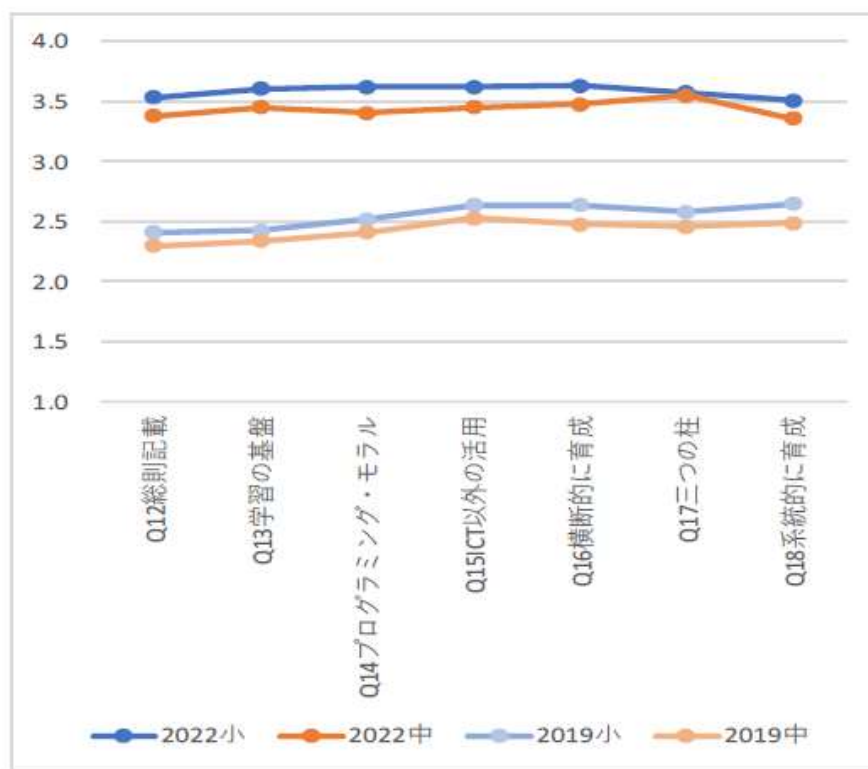
(7) 分析結果

①ICT 環境の整備状況

- ・ 大型提示装置： 全教室常設 65.2%、普通教室のみ 32.2%
- ・ 児童生徒端末： GIGA 整備完了 95.7%、保護者負担 1.7%
- ・ 授業用端末： 全教員 78.3%、一部教員 16.5%
- ・ クラウド： シングルサインオン 60.9%、サービスごと 30.4%
- ・ ネットワーク： 快適 40.9%、支障ない 47.8%



②情報活用能力の認知 (2019 と比較)



4：意識して指導している

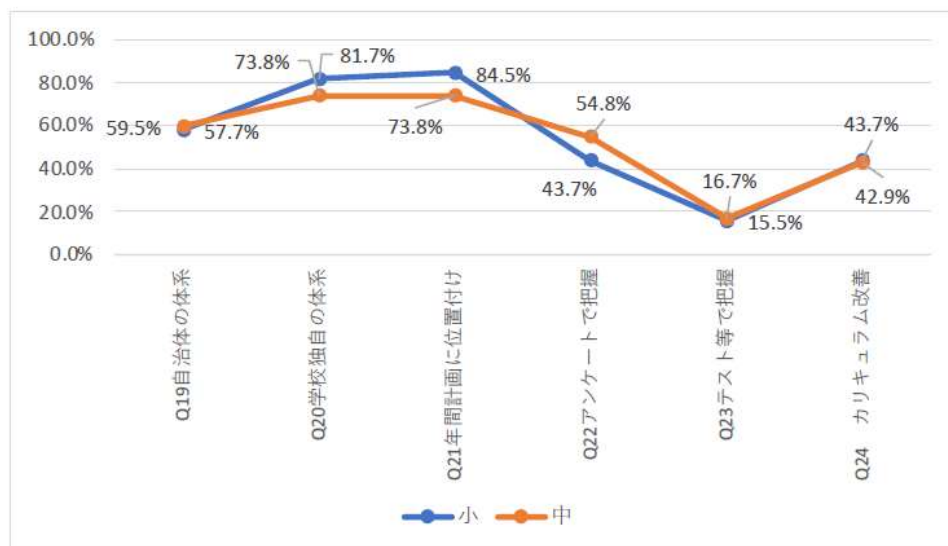
3：内容を理解している

2：聞いたことはある

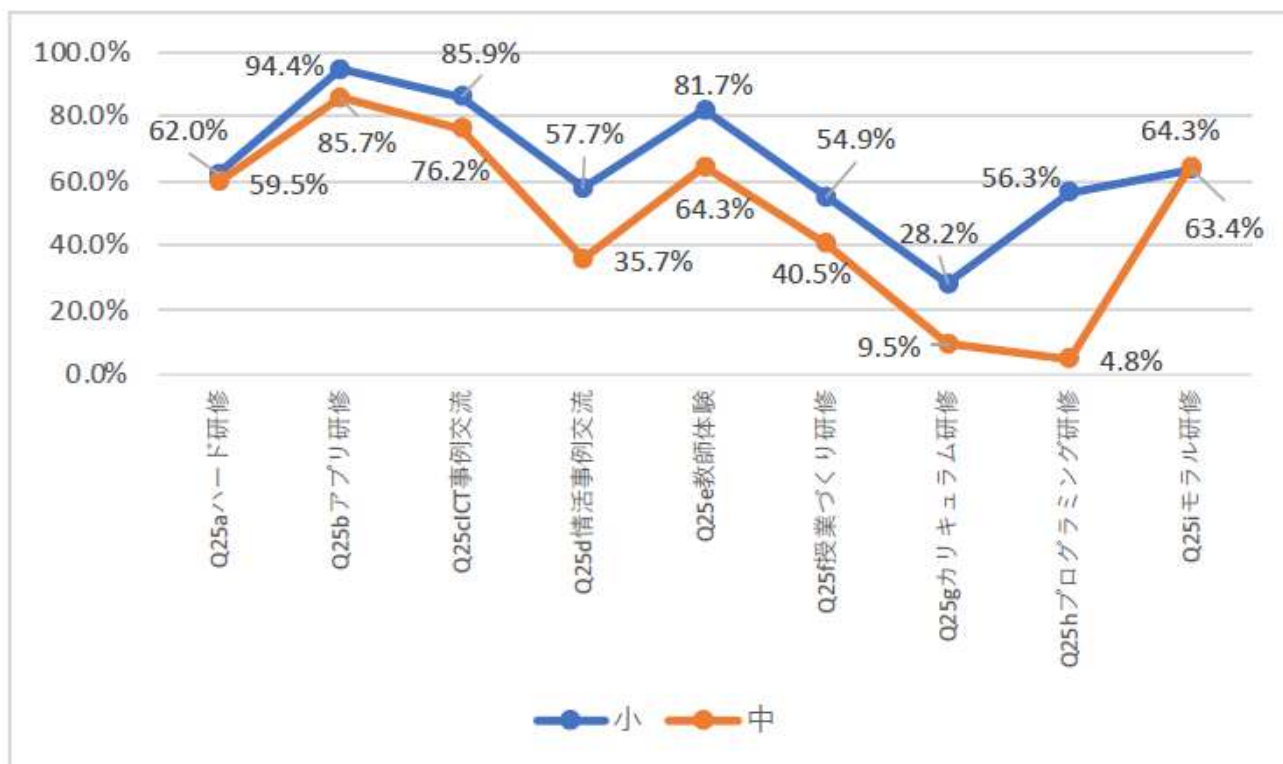
1：知らない／分からない

③カリキュラムマネジメント

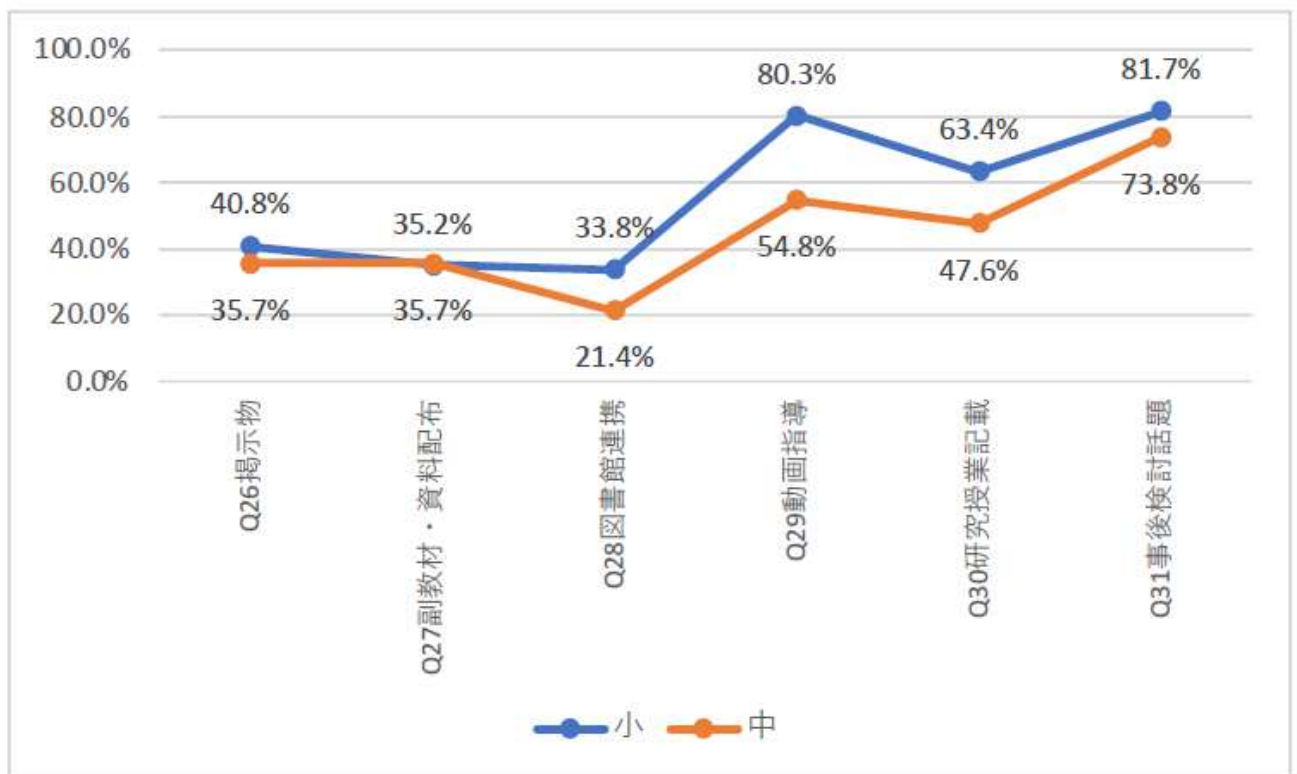
③カリキュラムマネジメント



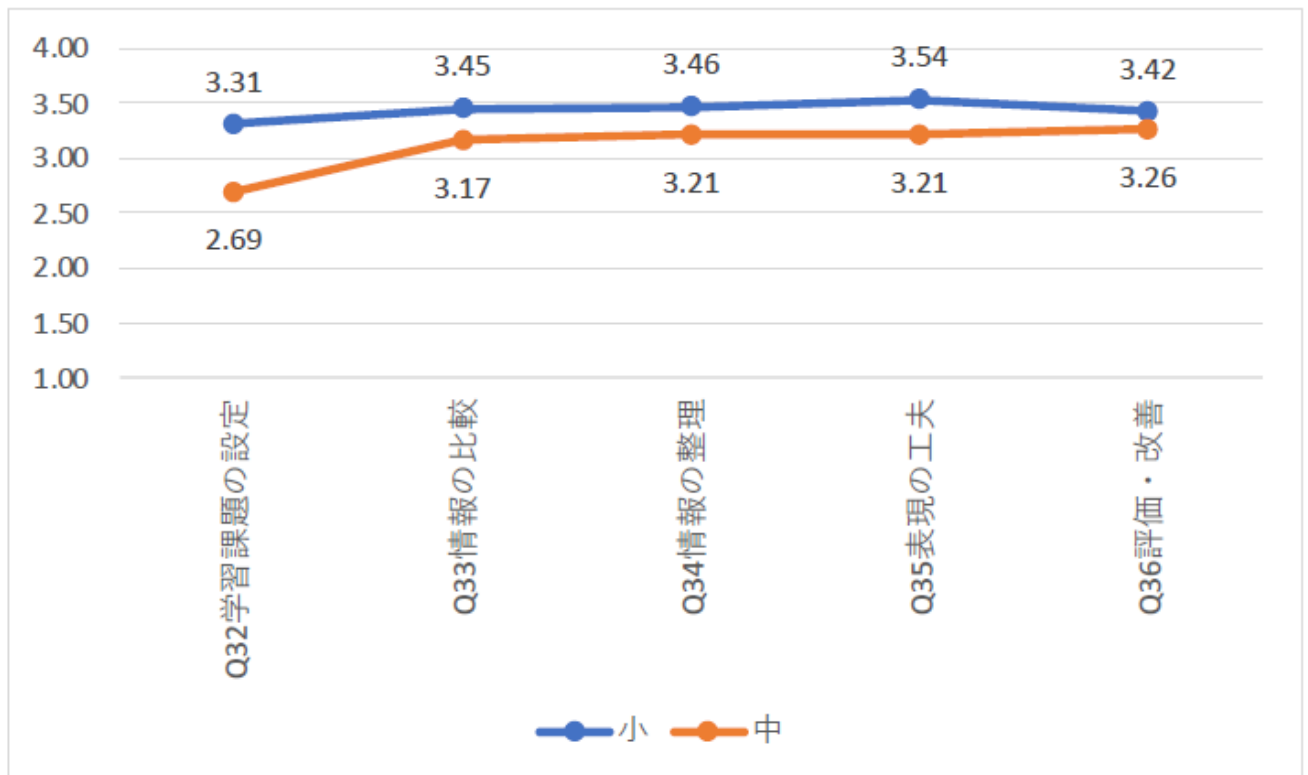
④教員研修



⑤学校としての取り組み

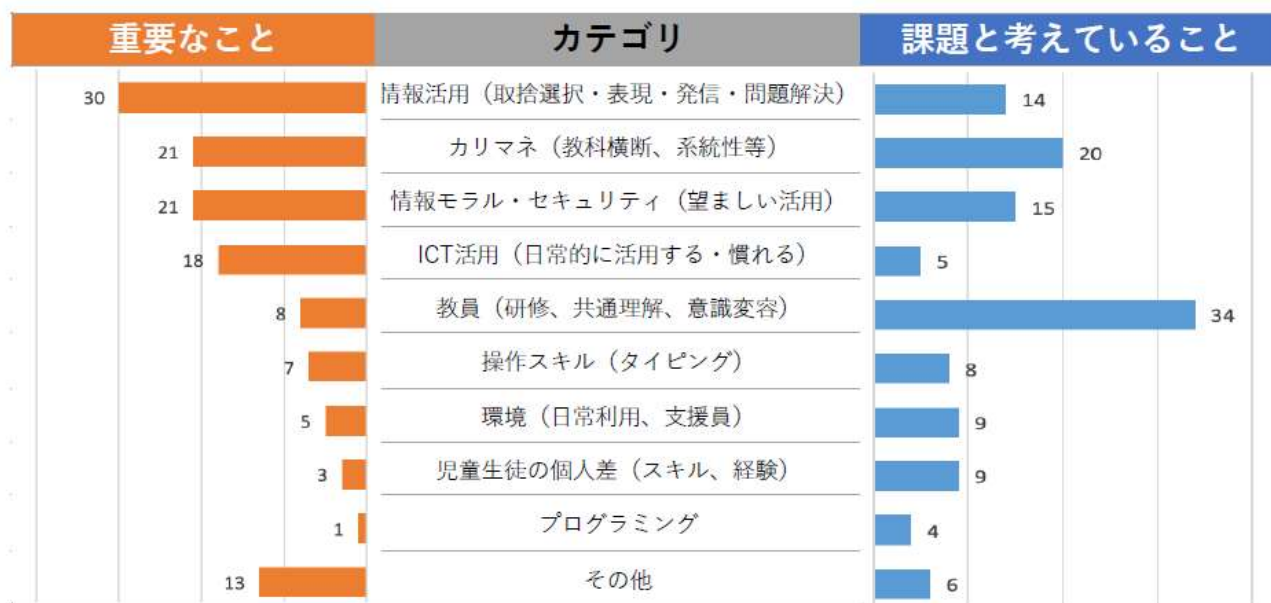


⑥学習活動の頻度



月に1回以上取り組んでいる 学期に数回程度取り組んでいる 年に数回程度取り組んでいる
 ほとんど取り組んでいない

記述「重要なこと」「課題と考えていること」



記述「重要なこと」「課題と考えていること」



まとめ

- ・ JAET 優良校への調査（小学校 71、中学校 42、義務教育学校 2 校）
 - ・ 環境： 端末持ち帰りにばらつき
 - ・ 認知： 学習指導要領の理解が進んだこと（小＞中は変わらず）
 - ・ カリマネ：PDCA の C と A に課題
 - ・ 研修： カリマネを実感できる研修機会
 - ・ 取組： 動画・研究授業で話題に。図書館、掲示物等教材の不足
 - ・ 活動： 小＞中は変わらず。特に課題設定に差
 - ・ 自由記述：重要（情報活用、カリマネ、モラル、日常利用）
- 課題（教員意識、カリマネ、モラル、情報活用）
- 1st ステップ：体系づくり・教材活用・研究授業で話題に
- 2nd ステップ：カリマネを機能させる研修、評価の仕組

5. セミナー開催

(1) 概要及びスケジュール

今年度は、3項で開発した情報活用能力ベーシックを活用して実践した模擬授業を関東と関西の2か所で実施する予定であったが、関西のみ模擬授業をハイブリット形式で実施。

また、新型コロナウイルスの影響で、関東は模擬授業ではなく実践発表となった。

図表14 セミナー開催実績

開催回数	開催日	開催場所	講師	人数
第1回	2021. 8. 5	大阪／関西教育 ICT 展・インテックス大阪／ ハイブリッド開催 *実践発表の岡本委員のみオンライン登壇	佐藤委員 秋元委員 岡本委員	20 名 (定員 20 名)
第2回	2021. 8. 6	大阪／関西教育 ICT 展・インテックス大阪 ハイブリッド開催 *コメンテータの岩崎委員、実践発表の郡司 委員がオンライン登壇	佐和委員 岩崎委員 郡司委員	20 名 (定員 20 名)
第3回	2022. 3. 11	教育の情報化推進フォーラム／実践発表オン ライン開催	小林副委員長 秋元委員 郡司委員	66 名
第4回	2022. 3. 11	教育の情報化推進フォーラムパネルディスカ ッション／オンライン開催	中川委員長 佐藤委員 前田委員	65 名
合計				171 名

(2) 概要

セミナーの開催地は以下の要領で行った。

1) テーマ

「教科に特化した、子どもたちの情報活用能力を育成するためのポイントとは？」

2) 開催時期と時間

令和3年8月5、6日開催「第6回関西教育ICT展」各90分

令和4年3月11、12日開催「教育の情報化推進フォーラム」

実践発表80分、パネルディスカッション70分*

*新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となった。

3) 対象受講者と会場あたりの定員

教職員 「第6回関西教育ICT展」 参加者 40名

新型コロナウイルスの影響で、定員を抑えての模擬授業実践となった。

教職員／教育関係者「教育の情報化推進フォーラム」 視聴者数131名

新型コロナウイルスの影響で、オンライン開催となった。

4) 開催会場

関西： 座席数20名程度のセミナー会場(有料会場)

関東： オンライン開催

5) セミナーの具体的な内容

情報活用能力育成検討委員会と事務局の協議で決定する

6) セミナーのプログラム

テーマ：「教科に特化した、子どもたちの情報活用能力を育成するためのポイントとは？」

ー小学校社会科の模擬授業からー

模擬授業：小学校5年社会科「わたしたちの生活と工業生産 自動車をつくる工業」

模擬授業者：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校 教諭 岡本 光司委員

コーディネーター：放送大学客員教授 佐藤 幸江委員

コメンテータ：船橋市立葛飾小学校 校長 秋元 大輔委員

テーマ：教科に特化した、子どもたちの情報活用能力を育成するためのポイントとは？

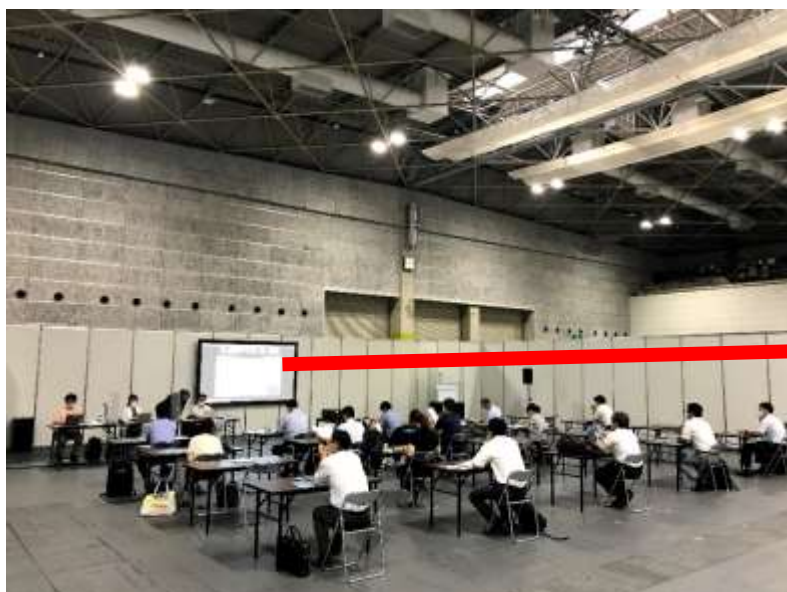
ー中学校・社会（地理的分野）「事実と解釈の明確な区分」の模擬授業実践からー

模擬授業：中学校第1学年社会科（地理的分野）「世界の諸地域 ④北アメリカ州」

模擬授業者：北海道教育大学附属函館中学校 教諭 教諭 郡司 直孝委員

コーディネーター：柏市立手賀東小学校 校長 佐和 伸明委員

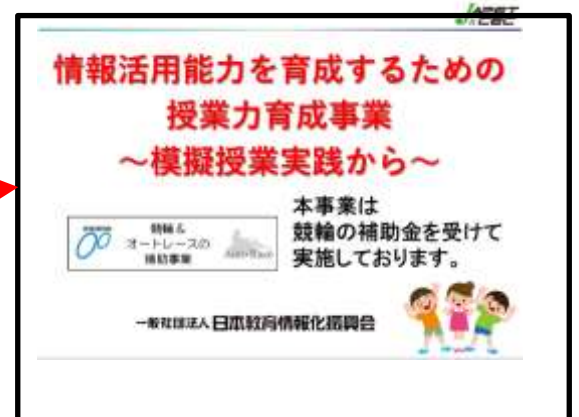
コメンテータ：鳥取県教育センター GIGA スクール推進課 係長 岩崎有朋委員



図表 1 5 関西教育 I C T 展内関西セミナー（インテックス大阪）の様子（令和 3 年 8 月 5 日）



図表 1 6 関西教育 I C T 展内関西セミナー（インテックス大阪）の様子（令和 3 年 8 月 5 日）



図表 1 7 関西教育 I C T 展内関西セミナー（インテックス大阪）の様子（令和 3 年 8 月 6 日）



図表 1 8 関西教育 I C T 展内関西セミナー（インテックス大阪）の様子（令和 3 年 8 月 6 日）

6. 授業研究

2022年度から本格的に始まる情報活用能力育成セミナー本番実施に向け、模擬授業等のセミナー企画に役立てるため、当委員会の中川委員長と前田委員が情報活用能力育成をテーマに授業指導している学校の公開授業と授業研究会を参観した。

また、熊本市立五福小学校の公開授業と授業研究会は、「対話を通して協働的に学び続ける子どもの育成～ICTの効果的な活用をとおして～」を研究主題とし、情報活用能力や課題の工夫、問題解決のための対話等をテーマとしており、本事業の研究内容にとっても参考になる実践であり、委員の先生方の授業研究の貴重な機会と考える。

(1) 開催地：熊本市立五福小学校

(2) 開催日時：令和4年2月4日（金）13：30～16：30

(3) 授業参観委員：佐藤委員、佐和委員

(4) 参観授業：公開授業

低学年第二学年国語「あなのやくわりを考えよう」

中学年第四学年国語「調べたことをほうこくしよう」

高学年第六学年総合「五福の町の魅力を知り、発信しよう！」

オミクロン株のまん延防止のため、子どもたちがいる教室には入れず、廊下やオープンスペースで参観となった。



低学年参観の佐藤委員



高学年参観の佐和委員

2021 年度事業「情報活用能力成事業（J K A 事業：コミュニケーション力育成事業）

2/4 情報活用能力育成授業研究調査報告書

日時：2 月 4 日（金） 会場：熊本市立五福小学校

報告者：所属 放送大学

氏名 佐藤幸江

1. 授業内容

学年： 2 年	科目： 国語	授業者： 矢野 香教諭
単元名：2 の 1 オリジナルあなのやくわりこうりゅう会をしよう		

2. 研究授業内容（授業の流れや指導・I C T 活用のポイント等）

本校は、研究テーマ「対話を通して協働的に学び続ける子どもの育成」～ICT の効果的な活用をとおして～を設定し、情報活用能力育成調査研究事業で提案した「情報活用能力の育成のための5つ学習プロセス」を元に、＜図1＞にあるような授業づくりと、研究の視点として「①協働的な学びにつながる課題の工夫」「②効果的な ICT 活用の工夫」「③学びを実感する振り返りの工夫」が提案されていた。本事業での提案を具現化した事例として、大変に示唆に富んだ内容であったと考える。



＜図1：学習プロセスと研究の視点＞



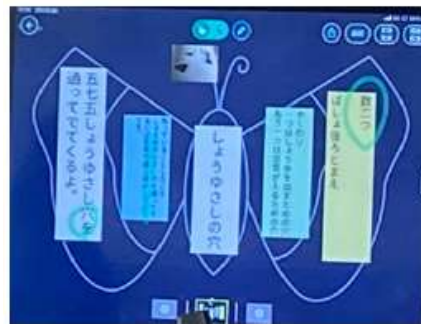
授業では、低学年における国語として、文章の内容と自分の体験と結び付けて考え、考えたことを文章にまとめることをねらいとした授業で、各自、紹介したい身近なもの＜図1：学習プロセスと研究の視点＞にある「穴」を題材として、友だちに紹介するための「場所、数」「役割」「なぜ」という3つの視点で調べた内容を整理するという、本事業提案の要素としては【整理】の段階であった。低学年の児童であっても、タブレット端末を自在に操作し、意欲的に自分が調べてきた内容をカードに整理する様子が観察された。

3. 情報活用能力育成事業において、参考になった点や事業に生かせる点等

- ・5つの学習プロセスをスパイラルに積み重ねる

情報活用能力の育成において、単元レベルでの5つのプロセスを大まかに教師が設計すること。実際に授業を実施する中で、「児童と共に学習課題を設定→振り返りから新たな課題を見出す」という学びを、低学年のうちからスパイラルに積み重ねていくことが重要であることが示唆された。

・色分けや思考ツールの活用タブレットで色分けされたカードで整理する際に、思考ツールのようなものがあると整理しやすいことがこれまでも提案されてきたが、今回も児童の学びを促進する要因として有効に作用することが観察された。しかし、本授業において「思考ツールを自由に選択」させていたため、思考ツールの「形」を利用している様子が観察された。整理する際のツールの活用に関しては、今後も検討が必要である。



2021 年度事業「情報活用能力成事業（J K A 事業：コミュニケーション力育成事業）
2/4 情報活用能力育成授業研究調査報告書

日時：2 月 4 日（金） 会場：熊本市立五福小学校

報告者：所属 柏市立手賀東小学校

氏名 佐和伸明

1. 授業内容

学年：5 年 2 組	科目：総合的な学習の時間	授業者：松嶋 弓弦
単元名：『五福の町の魅力を知り、発信しよう』		

2. 研究授業内容（授業の流れや指導・I C T 活用のポイント等）

単元名『五福の今の魅力を伝える地図を作ろう ～SDGs の取り組みを紹介しよう～』（35 時間）のなかで、本時は、「それぞれのグループがまとめたパンフレットを元に、五福の魅力が伝わるフットパスコースをつくる」ことを目標とした時間であった。

まず、本時のめあてや活動を確認め時間には、SDGs の視点と五福の魅力の 2 つをはっきりとさせることを確認していた。

次に、パンフレットや前時に作成した資料を元に、「五福の魅力が伝わるオリジナルフットパスコース」を班で話し合っていた。根拠を整理するためには、シンキングツールを用いた。

そして、話し合って決めた「オリジナルフットパスコース」を全体で発表した。1 人 1 台端末と電子黒板を用いて、全部の班がコースを発表した。質疑・応答はほとんどなかった。

I C T 活用については、コロナ禍で自宅からオンラインで授業に参加している児童が数名いたが、班での話し合いも、全体での発表にも参加することができていたのは、I C T の効果だと感じた。また、I C T の操作に不安な様子がなかった。G I G A スクール構想により、1 人 1 台端末環境が定着し、活用が日常化している印象を受けた。

3. 情報活用能力育成事業において、参考になった点や事業に生かせる点等

授業後に本田校長より、「情報活用能力の育成について、教職員がなかなかイメージを共有することができなかった。情報活用能力ベーシックを紹介してもらい、ストンと落ちたようだ。そのため、全学年の生活科と創造的な学習の時間について、情報活用能力ベーシックを用いて系統的な単元構想を行うことができた。」という説明を受けた。

学習指導要領で情報活用能力は学習の基盤に位置付けられたが、どのように進めるかまだ「共通のものさし」を持っていない学校がほとんどである。今後、情報活用能力ベーシックを普及させることは、情報活用能力の育成を目指した校内研究の推進に向けて、役立つものであることを実感した。



7. まとめ

本委員会では、学校現場の先生方が子どもたちの情報活用能力を育成する学習を行うために、参考となる指導指標を開発することやその指導指標を学校現場で活用してもらう、普及することを本事業の目的とした。

2021年度は、2020年度に開発した授業の構想及び実践に資することを意図し、学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた「情報活用能力ベーシック」の活用方法について、学校現場の先生目線で「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」としてまとめることができた。

また模擬授業については、この情報活用能力ベーシックを活用した学習指導案を作成し、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできるものとして開発した。今後、様々な地域やイベントで広く模擬授業を実施していき、さらに活用されることを期待している。

本委員会では、研究者、教育委員会担当者、校長、教員、そして事務局の日本教育情報化振興会が一丸となって、本事業を進めてきた。この冊子や取り組みが、子どもたちの情報活用能力育成に寄与することを願ってやまない。

2020年度に制作した「情報活用能力ベーシック」パンフレットと2021度に制作した「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」となる成果物を活用し、来年度はセミナー、ワークショップ等の形で普及啓蒙していく予定である。

また、「情報活用能力ベーシック」と「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」は、学校現場の先生方に活用していただく、教育関係者に役立つものと考えている。

以 上

教育現場の I C T 安全安心対策事業 実施報告書

発行・著作 一般社団法人日本教育情報化振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8階

TEL 03-5575-5365

FAX 03-5575-5366

<https://www.japet.or.jp/>

禁無断転載

